

井原市教育委員会事務
点検・評価報告書

(令和5年度事業対象)

令和6年12月

井原市教育委員会

目 次

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要	
1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び 評価の実施方法等について	1
(1) 点検・評価の目的	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の方法	
II 教育委員会の活動状況	
1 教育委員会会議の開催状況	3
2 その他の主な活動	5
III 令和5年度 教育委員会事務事業評価調書	
重点施策 大項目1 よりよい学校教育により よりよい社会を創る	8
重点施策 大項目2 心豊かで郷土を愛する人を育む生涯学習	28
重点施策 大項目3 個性ある地域文化を育むまちづくり	43
重点施策 大項目4 スポーツの力でつくるひととまち	49
重点施策 大項目5 教育施設・設備の整備と機能の充実	54
井原市教育委員名簿	58

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「法」という。)第26条の規定に基づき、井原市教育委員会が教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図り実施した点検・評価の結果について報告するものである。

2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について

(1) 点検・評価の目的

点検・評価は、法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としている。

(2) 点検・評価の対象

ア 対象期間

令和5年度を対象期間とする。

イ 対象事務

法に規定する教育委員会の権限に属する事務を対象とする。

(3) 点検・評価の方法

法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する5人の委員による「井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会」を開催し、教育委員会事務局が作成した自己評価調書について、点検・評価をいただいた。

なお、第三者評価委員会委員の選任にあたっては、本市の「教育現場」への理解度の深さを前提に、教育行政現場における実務経験及び各分野における専門性等を考慮し委嘱した。

○井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員

氏名	役職等
東 恵子	元芳井中学校長
佐藤美保	井原市社会教育委員
高村俊二	井原市スポーツ協会 副会長
佐藤陽子	井原市文化協会 副会長
片山正樹	前井原市教育長

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況

井原市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催することとしている。

この会議において、教育長と4人の教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃、教科書の採択など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

このほか、学力向上や不登校防止に係る諸問題、教育委員会会議概要の公開などを協議案件として、事務局との質疑応答や意見交換、教育委員間での協議を行った。

令和5年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	附 議 案 件 等
令和5年 4月定例会 (5.4.27)	美星公民館	【報 告】 井原市教育委員会職員の人事異動について 井原市公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市芳井公民館芳井分館長の任命について 井原市立平櫛田中美術館運営委員会委員の任命について 井原市立学校における学校運営協議会の対象学校の指定について 【議 案】 井原市立学校の学校運営協議会委員の任命について
5月定例会 (5.5.25)	市役所 403 会議室	【報 告】 井原市ふれあいセンター運営委員会委員の委嘱について 井原市公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市社会教育委員及び井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 井原市立学校評議員の委嘱について 【議 案】 井原市立図書館協議会委員の任命について
7月定例会 (5.7.20)	市役所 403 会議室	【報 告】 令和5年度井原市一般会計補正予算(第3号)について 【議 案】 令和6年度使用井原市立高等学校教科用図書の採択について 【協 議】 令和6年度使用井原市立小学校教科用図書の採択について
7月臨時会 (5.7.27)	市役所 403 会議室	【議 案】 令和6年度使用井原市立小学校教科用図書の採択について

9月定例会 (5.9.26)	市役所 403 会議室	【報 告】 令和5年度井原市一般会計補正予算(第4号)について 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について 令和5年度岡山県学力・学習状況調査の結果について
10月定例会 (5.10.17)	市役所 403 会議室	【協 議】 令和4年度井原市教育委員会事務事業評価について
12月定例会 (5.12.21)	市役所 403 会議室	【報 告】 令和5年度井原市一般会計補正予算(第5号・第6号)について 【議 案】 令和5年度末井原市教職員人事異動方針について 井原市市費負担教員の任用等に関する規則の一部を改正する規則について
令和6年 1月定例会 (6.1.30)	市役所 503 会議室	【議 案】 令和6年度全国学力・学習状況調査への参加について 【協 議】 学校運営協議会の取組状況について 令和6年度教育行政重点施策について
3月定例会 (6.3.21)	市役所 403 会議室	【報 告】 教育委員会委員の任命について 令和5年度井原市一般会計補正予算(第7号)について 令和6年度井原市一般会計予算(教育費関係)について 【議 案】 令和6年度教育行政重点施策について 井原市公民館長の任命について 井原市立図書館協議会委員の任命について 井原市スポーツ推進委員の委嘱について 井原市教育委員会教育長に属する事務の一部を学校その他の教育機関の職員に委任し、又は補助執行させる規則の一部を改正する規則について 井原市教育委員会事務決裁規則の一部を改正する規則について 令和5年度末井原市教職員人事異動の内申について

2 その他の主な活動

教育長及び教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議・関係行事へ出席している。
令和5年度における主な活動は次のとおりである。

月 日	会議・研修会等	場 所
4月25日	教育問題懇談会	Web会議
5月 8日	岡山県都市教育委員会教育長協議会定例会	津山市立図書館
6月20日	新任管理職表敬訪問	笠岡市
6月29日	新任管理職表敬訪問	高梁市
7月19日	7月期教育長連絡会議	岡山市 ピュアリティまきび
8月 4日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	岡山市 ヲン・ピ ーチ OKAYAMA
10月	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	書面決議
10月13日	青野小学校研究発表会	青野小学校
10月19日	中国地区都市教育長会定期総会	岡山市 ヲン・ピ ーチ OKAYAMA
10月24日	10月期教育長連絡会議	岡山市 ピュアリティまきび
10月26日	井原幼稚園研究発表会	井原幼稚園
11月17日	井原中学校研究発表会	井原中学校
11月22日	教育委員会事務事業第三者評価委員会	井原市役所
11月24日	岡山県市町村教育委員会委員研修会	Web研修
12月21日	市町村教育委員会研究協議会	Web研修
1月 7日	令和6年井原市二十歳のつどい	井原市民会館
2月 1日	岡山県都市教育委員会教育長協議会教育行政視察	米子市立福米中学校 ほか
2月 4日	井原市まち&ひとづくりフェスタ	芳井生涯学習センター
2月 5日	井原市総合教育会議	井原市役所
3月 2日 ~22日	卒業(園)証書授与式	市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 12園

令和5年度 教育委員会事務事業評価調書

1. 評価調書の取りまとめについて

「令和5年度教育行政重点施策」の体系に基づき、小項目ごとにとりまとめ状況と成果、課題と対応策等を評価調書として取りまとめています。

【基本目標】伝統、文化が引き継がれ、郷土を愛する人が育まれるまちづくり

大項目	中項目	小項目
1. よりよい学校教育により よりよい社会を創る	1. 基礎学力の向上	(1) 幼児教育の推進
		(2) 義務教育の推進
		(3) 高校教育の推進
		(4) 特別支援教育の推進
		(5) 教師力の向上
		(6) 社会に開かれた教育課程の実現によるワーク&ライフキャリア教育の推進と井原“志”民力の育成
	2. 心と体を育てる教育の充実	(1) 心の教育の推進
		(2) 健やかな体力づくりの推進
		(3) 不登校対策と生徒指導の充実
		(4) 基本的な生活習慣の定着
	3. 学校・家庭・地域の連携による人づくり	(1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成
		(2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化
2. 心豊かで郷土を愛する人を育む生涯学習	1. 学校・家庭・地域の連携による人づくり	(1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成
		(2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化
		(3) 家庭や地域の教育力の向上
	2. 生涯学習の充実	(1) 生涯学習によるまちづくりの推進
		(2) 魅力ある学習機会の提供と環境づくり
	3. 人権を尊重する社会の実現	(1) 人権教育の推進
3. 個性ある地域文化を育むまちづくり	1. 芸術・文化活動の活性化と環境づくり	
	2. 文化施設の活用	
	3. 文化財・歴史的資源の保存・活用	
4. スポーツの力でつくるひととまち	1. 気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり	(1) 生涯スポーツの振興
		(2) 体力や健康状態にあったスポーツの振興
	2. 競技スポーツの振興	(1) 井原市スポーツ協会の充実
		(2) スポーツによる元気の発信
5. 教育施設・設備の整備と機能の充実	1. 学校(園)施設・設備の整備	
	2. 社会教育施設・設備の整備	

2. 評価調書の項目について

表題 小項目の名称

方針 小項目に関する事業推進の方針

目標指標 小項目に関する事業の達成度を評価するための指標

年度中における取組状況と成果

年度中における各種事業の取り組み状況と成果を記述しています。

□（白ぬきの四角）は、担当課による自己評価で、「成果をあげ、目的を達成している。」、「目的をほぼ達成している。」

■（黒ぬりの四角）は、「目的を達成していない。」、「十分な成果があがっていない。」

課題と対応策

目的を達成していない事業や十分な成果があがっていない事業について、課題と改善のための対応策を記述しています。

また、目的を達成した事業等についても、さらなる改善事項や今後の展望等について記述しています。

有識者による評価意見等

井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会において各委員から発言のあったご意見等を記入しています。

1. よりよい学校教育により よりよい社会を創る（学校教育の充実）

1. 基礎学力の向上

1 - (1) 幼児教育の推進							
<p>幼稚園教育の推進のため、全園で3歳児教育と預かり保育を実施します。</p> <p>また、幼稚園の教職員研修の充実により、生涯にわたる人格形成の基礎を担う就学前教育の質の向上を図るとともに、小1プロブレムの解消に向け、小学校教育への円滑な接続ができるよう、幼稚園等と小学校との連携を推進します。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	保幼小接続推進会議を 計画的に行っている小 学校区	全学区 (R3)	全学区	全学区	全学区	全学区	全学区
			全学区				
令和5年度中 における取組 状況と成果	<p>□幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実 平成30年度から実施となった教育要領に基づいた適切な教育課程を編成・実施し、保育実践の充実を図った。教育要領について、研修、研究等を行い、各園で実践を行った。</p> <p>□幼稚園教職員研修の充実 預かり保育、3歳児教育、特別支援教育、運動遊び等幼児理解を深め、指導力を向上するための研修を各園で行った。幼稚園教諭としての専門性を高め、保育の充実につながった。</p> <p>□幼稚園における預かり保育の充実と家庭教育力の向上 預かり保育担当者研修を実施し、幼稚園教育要領に基づいた教育活動について研修を行った。令和5年度は、主に、預かり保育における指導計画のあり方について研修を深めた。</p> <p>□保幼小接続事業 各小学校区で保幼小接続推進会議を行い、円滑な接続を図ることができている。現在実施を推進されている、幼保小の架け橋プログラムについては、具体的な内容や進め方について、まだ理解が進んでいないと思われる。</p> <p>□非認知能力育成プログラムの開発・導入 ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業の一環として、「井原版 aeru school（井原デニムを用いた非認知能力育成プログラム）」を実施し、井原デニムや、地域の素材に触れて遊ぶ中で育つ非認知能力の見取りと検証を行った。各園で幼児に育てたい非認知能力が、教師のどのような援助や環境構成によって育っていったかを実践事例を持ち寄り研修した。</p>						

	<p>□他園交流の推進</p> <p>オンラインによる交流が積極的に行われている。幼児同士の事前の顔合わせや、導入を行っておくことにより、対面での交流に効果的である。また、職員同士も事前・事後の打ち合わせ、反省をオンラインで行うことができ、移動時間が削減された。</p>
課題と対応策	<p>保幼小接続事業</p> <p>教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いながら啓発や研修を進め、カリキュラムの有効な活用を推進する。また、令和4年3月に「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」が示された。今後、行政が主導しながら、5歳児から小学校1年生の2年間のカリキュラム作成が求められるであろうことを念頭に置いて、接続事業を推進していかなければならない。</p>
有識者による 評価意見等	<p>保幼小接続事業</p> <p>小1プロブレムの対策に役立っていると思うので、継続して積極的に取り組んでいただきたい。</p>

1 - (2) 義務教育の推進							
<p>学級が落ち着き、高め合う集団であることがすべての教育活動の基本となるため、落ち着いた学級づくりを推進します。</p> <p>確かな学力の育成については、小学校において35人以下学級を継続させ、言語活動の充実、きめ細かな指導、教職員研修の充実を図るとともに、小中学校において主体的な学びのサポート事業を継続します。</p> <p>学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携・協働のもとに、次代を担う子どもたちに、学びに向かう力・人間性の涵養、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成するための教育を推進します。</p>							
<p>目標指標 (全国値を上回る) ※各年度の数値は 上段が全国値 下段が井原市</p>	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	学校の授業以外に、1日当たり1時間以上学習する児童の割合(小学校)	73.4% (R3)	57.1% 66.0%				
	学校の授業以外に、1日当たり1時間以上学習する生徒の割合(中学校)	72.9% (R3)	65.8% 62.3%				
	国語の勉強がよく分かる児童の割合(小学校)	84.5% (R3)	85.7% 91.7%				
	国語の勉強がよく分かる生徒の割合(中学校)	84.7% (R3)	80.0% 83.8%				
	算数の勉強がよく分かる児童の割合(小学校)	85.1% (R3)	81.2% 83.0%				
	数学の勉強がよく分かる生徒の割合(中学校)	76.8% (R3)	73.3% 88.6%				
	令和5年度中における取組状況と成果	<p>□いばらっ子伸びる学力支援事業(非常勤講師8人配置、小1支援員配置) 少人数指導充実のための市費非常勤講師配置:算数科・国語科、英語科等において習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図った。 高屋小・西江原小・野上小・井原小(2人)・出部小・芳井小及び高屋中・木之子中・井原中・美星中(3人)に配置。 小1支援員は出部小へ配置した。適切な配置と効果的な活用ができ、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。</p> <p>□小規模校学習支援活動 小規模小学校から大規模中学校への進学に伴う「中1ギャップ」の解消・緩和を図るため、中学進学前に交流学习を実施。令和6年1月16日に野上小6年生児童3人と青野小6年生児童8人が西江原小学校へ出向き、西江原小6年生児童40人とともに学習や交流を行った。通常の授業を一緒に体験することにより、中学進学への意識向上と人間関係づくりに一層よい影響を与えている。</p> <p>□全国学力・学習状況調査の実施 学習指導要領で示されている学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力等)の育成を図るための検査を実施した。 児童生徒の学力と課題について把握し、対応を進めることができた。</p>					

□学力向上対策事業

児童生徒の現状と課題、各校の取組を共有し、市全体で学力向上に向けた意識と実践の高揚を図るため、学力向上対策研修会を年3回実施した。

全国調査において、質問紙項目の「国語、算数・数学の授業はよく分かる」の肯定的回答率は全国平均より高いが、正答率は全国平均より低い傾向が見られたことから、市全体の課題として授業改善の方向性について協議を行った。

今後の授業改善の具体的な取組について全体で共有することができた。

□一人一台端末を中心とする ICT 機器を活用した教育活動の充実

GIGAスクール構想の取組の1つとして、児童生徒一人一台端末が導入され3年目となった。各校において、電子媒体課題の配布回収・調べ学習・クラス内個々の意見や考えの共有などに活用された。

また、中学校は4月から、小学校は6月から可能な学年で端末の持ち帰りを行った。家庭における端末の活用が推進されるようお願いした。1学期と2学期にはアンケート調査を実施し、検証を行った。

□デジタル教科書の活用推進

必要に応じて写真、動画、音声等による教材提示ができるため、授業において活用している。「分かりやすい授業の実現」、「教職員の負担軽減」、「児童生徒の情報活用能力の向上」の定着のために有効である。

□英語授業の充実（ALT9人の活用）

市内幼稚園・小・中・高等学校全体でALT9人を派遣。小学校外国語活動、国際理解教育、外国語授業の助手として充実した働きをしている。1日の授業は3時間から5時間で1日7時間勤務。市内小学校では3・4年生は年間35時間の外国語活動、5・6年生は年間70時間の外国語科の授業を行った。学校では活用法の工夫をすすめている。学校でも効果的に活用しており、外国語教育の充実を図ることができた。

■グローバル人材育成事業（英語検定料補助金）

英検の検定料の助成対象者を井原市立中学校在籍の全生徒とし、中学校卒業程度レベルである3級合格を目指し、級を問わず、生徒1人に対し年1回の検定料を補助している。令和5年度実績は149人（中1:31人、中2:43人、中3:75人）、申請率は17.4%であった。令和4年度実績は140人、申請率は15.8%だったので、昨年度より若干増加した。英語検定受験者数に対しての申請率は不明だが、補助を希望する家庭が漏れなく申請できるよう、より一層の周知を図る必要がある。

□主体的な学びの基盤づくり事業（13小学校、5中学校）

小中学校に支援員・指導員を配置し、放課後に補足的な学習等を実施することで、学習内容の確実な定着を図り、児童生徒の学力向上を図った。

参加する学年や時期、内容等各校で工夫され計画的に実施することで児童生徒の学力向上に成果があった。

□地域での学習支援活動（5小学校区） ※旧地域土曜学習サポート事業

公民館等で、地域の教員OB等の地域人材を活用した土曜日学習を実施し、児童の学力向上を図るとともに、地域の教育力の向上及び学校と地域との連携を深めた。

	<p>令和3年度より「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」内「地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業」における『地域での学習支援活動』に位置付けて地域の実態に応じて取り組んでおり、令和5年度は5小学校区にて実施（謝金支払の申請があった学校区数）。</p> <p>□片山科学賞基金運営事業</p> <p>片山科学子ども教室は、岡山理科大学の学生を講師として招聘し、サイエンスショー及び5ブースに分かれての体験・実験を行い、科学する心の育成を図った。また、小・中学校の児童生徒の科学研究・発明工夫の表彰を実施した。表彰された作品は「科学する心」という研究収録にまとめた。出品数は、科学研究39点、発明工夫23点であった。</p> <p>片山科学賞は36回となり、科学する心の育成に寄与している。</p> <p>□キャリア教育の充実（中1パスカード、中2ワーク&ライフ職場体験、中3高校調べ、キャリア・パスポートいばら版の活用）</p> <p>中学校1年生でパスカードによる進路適性検査、2年生でワーク&ライフ職場体験、3年生で高校についての調べ学習を行った。3年間を見通した系統的な取組を行うことで確かな職業観と豊かな人生観を育み、社会的・職業的自立に必要な能力の育成を図った。各学年の取組が、自らの将来について向き合うきっかけとなり、進路についての理解を深めることができた。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>1人1台端末を中心とするICT機器を活用した教育活動の充実</p> <p>端末の活用について、指導者が提示等に活用することは概ねできているが、学習者が活用する頻度については学校間、指導者間で差がみられる。学校間での活用スキルに差が出ないような取組になるよう各校に指導していく。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>小規模校学習支援活動</p> <p>複式学級となる小学校が増えている中、対象校を改めて考える必要があると思います。また、今後の児童生徒数を予測しながら、学校園のあり方についても考えるべきときが来ていると思います。</p> <p>地域での学習支援活動</p> <p>せっかく制度化されている事業ですので、5小学校区での実施から広がるように、促していただきたい。</p>

1 - (3) 高校教育の推進							
<p>井原市立高等学校は、井笠地域唯一の定時制高等学校としての特徴を活かし、生徒の「未来を拓く学びの場」として、様々な背景を持つ生徒の学力向上と社会性の育成を図り、生徒の自己実現を通して地域社会に貢献する高校を目指します。</p> <p>(令和5年度生徒数:101人)</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は上段が目標値下段が実績値	授業や課題に取り組むなかで「できた」「わかった」と感じたことがある生徒の割合	94.0% (R5)	94.0%	94.0%	94.0%	94.0%	94.0%
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□基礎学力の充実 習熟度別や少人数での授業、複数の教員での対応や、授業方法の改善のための研修など、生徒一人ひとりが「分かる授業」を実感できるよう工夫と実践を繰り返している。それぞれの授業の中で既習内容も復習しながら、高校の学習内容に取り組み、進学・就職につながるような授業を展開する一方で井原市内の地域の方々や企業の方々と積極的に交流し、社会性の育成を図る授業を充実させている。</p> <p>□キャリア教育の充実 4年間を見通した体系的な指導計画を立て、職業体験学習・職場見学・インターンシップ・進路講演会など、進路行事を実施し、自分に合った進路の早期決定を促した。どの行事も事前学習をして臨み、経験的行事では発表会なども実施し、学習の深化を図っている。今年度、100%の就職率を達成することはできなかったが、進路を絞り切れない生徒にもさまざまな選択肢を提示し、生徒の夢を応援するため、多様な希望に対応した。</p> <p>□各種検定・資格の取得推進 多くの生徒が様々な検定に挑戦し、資格を取得している。漢字能力検定では、2級に1人、3級に3人、4級に3人、5級2人、食物調理技術検定では、3級に1人、4級に21人が合格した。様々な検定に挑戦し資格を目指すことで、学習意欲の向上が見られる。</p> <p>□主権者教育の推進 公民科「現代社会」の中で、主権者教育について学習した。</p> <p>□消費者教育の推進 家庭科「生活デザイン」の中で、消費者として自立することについて学習した。</p>						
課題と対応策	<p>基礎学力の充実 授業や課題に取り組むなかで「できた」「わかった」と感じたことのある生徒の割合はR5年度(12月実施)授業に関するアンケートでは94%という数値であった。残り6%の生徒にも「できた」「わかった」が実感できる授業づくりに努めたい。</p>						
有識者による評価意見等	<p>キャリア教育の充実 地元企業への高い就職率、生徒の進路選択の一助となるよう、引き続き充実した事業となるよう努めていただきたい。</p> <p>基礎学力の充実 取組の効果がでていっています。引き続き、お願いします。</p>						

1 - (4) 特別支援教育の推進							
<p>学校における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくりを通じ、特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実や教員の指導力の向上を図り、子どもたちが達成感や成就感を持ち、学習意欲を高めることができるようにします。また、就学前から卒業後までを一貫して支援できるよう、関係機関と連携体制の整備を図ります。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	学習支援員を対象とした特別支援教育研修会の開催	年1回 (R3)	1回 1回	1回	1回	1回	1回
令和5年度中 における取組 状況と成果	<p>□学習支援員の活用（42人） 原則として通常学級に在籍する特別支援の必要な児童生徒の支援を行った。 6時間×200日 42人（高小3、大小2、稲小2、県小1、木小3、荏小2、西小5、野小2、青小2、井小4、出小5、美小1、芳小3、高中1、木中1、井中3、美中1、芳中1）を配置した。 特別支援の必要な児童・生徒の支援を中心に行い、落ち着いた学校づくりに果たした役割・成果は非常に大きい。</p> <p>□巡回相談員の配置と活用（1人） 特別支援教育に関する専門的な指導を行う巡回相談員1人を配置し、保育園、幼稚園・小学校・中学校への巡回相談を実施した。 専門家を学校へ派遣することによって、適切な指導助言を受け、特別支援教育に関する指導の改善を行うことができた。</p>						
課題と対応策	<p>学習支援員の活用 特別支援の必要な児童・生徒数の出現率は増加傾向であり、引き続き支援員の適正配置に努め、支援内容等について研究していく。</p>						
有識者による 評価意見等	<p>学習支援員の活用 増加傾向にある特別支援の必要な児童生徒に細やかな対応ができるよう、今後とも人材確保、適正配置に努めていただきたい。</p>						

1-(5) 教師力の向上

子どもたち一人ひとりの状況を的確に把握し、習熟度別指導など個に応じたきめ細かい指導を充実するとともに、授業改善やICT活用等指導力向上のための研修を推進することなどにより、子どもの学習意欲を喚起し学力を向上させる「教える技術（授業力）」の高い、不断に学び合う教員を養成します。

さらに教職員には、強い使命感、子どもたちへの教育的愛情及び実践的指導力やコミュニケーション能力など、学校や子どもたちが抱えるさまざまな教育課題に適切に対処できる資質や能力が求められることから、人間性豊かで優れた人材の確保に努めるとともに、採用後研修の充実や適切な人事管理等を行います。

また、教職員が自らの資質能力を十分発揮できるよう教職員の健康の保持増進を図ります。

	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9	
目標指標 (全国値を上回る) ※各年度の数値は 上段が全国値 下段が井原市 (再掲)	学校の授業以外に、1日当たり1時間 以上学習する児童の割合(小学校)	73.4% (R3)	57.1% 66.0%					
	学校の授業以外に、1日当たり1時間 以上学習する生徒の割合(中学校)	72.9% (R3)	65.8% 62.3%					
	国語の勉強がよく分かる児童の 割合(小学校)	84.5% (R3)	85.7% 91.7%					
	国語の勉強がよく分かる生徒の 割合(中学校)	84.7% (R3)	80.0% 83.8%					
	算数の勉強がよく分かる児童の 割合(小学校)	85.1% (R3)	81.2% 83.0%					
	数学の勉強がよく分かる生徒の 割合(中学校)	76.8% (R3)	73.3% 88.6%					
	□若手・中堅教員研修の充実 教員の指導力向上を図るため、近隣市町と協力し研修会を開催した。 若手研修を初任者のみを対象として8月4日に井原市役所4階大会議室で開催した。全体で31人の参加があり井原市からも11人の初任者が参加した。また、中堅研修会も同日同会場で行い、全体で37人が参加した。市内からも5人の教員が参加し、ミドルリーダーとしての自覚を高めることができた。							
	□ICT活用研修の充実 タブレットドリルの活用について、東京書籍の方を講師に招き研修を行った。学力調査結果の活用の仕方や、課題の配布方法を確認したり、実際に問題に取り組んだりすることで、児童生徒が端末を活用するイメージを共有することができた。							
□研究指定校による研究発表会（井原幼、青野小、井原中） 井原幼稚園、青野小学校、井原中学校において各学校の研究成果を発表した。各学校の園児児童生徒の実態に基づき、思考力向上・学力向上や幼稚園小学校学習指導要領の指導内容を踏まえた学習指導法等についての研究を進めることができた。								
□井原市学校教育研究会研修事業の実施 各班において夏季休業中の班会等を開催した。 教職員の自主的な研修を推進することができた。								

令和5年度中
における取組
状況と成果

	<p>□ICT支援員の活用 学校でのICT活用を更に推進するため、授業や研修等において教育のICT活用をサポートする「ICT支援員」を派遣により4人配置し、教育活動の充実を図った。 学校HPの更新、教材作成補助、ネットワーク調整、ICT機器の修復等を行った。ICT活用のための有効な支援ができた。 また、ヘルプデスクにより「ICT支援員」の派遣のない日も支援できる体制をとることができた。</p> <p>□教師業務アシスタント配置（常勤6校、兼務12校） 教師業務アシスタントを配置し、指導資料の印刷や、授業の準備および片付け、調査統計作業やデータ入力作業、会議資料や議事録の作成などの「教員が行う事務作業の支援」、さらに、「教育活動に係る事務補助」、「課外活動に係る事務補助」を行った。教師業務アシスタントの配置により、教師が子どもと向き合う時間を確保でき、現在の教育課題である学力向上や問題行動を減少させたりする取組を進めることができた。</p> <p>□教育ネットワークの活用促進 教育ネットワーク（desknet NEO）の各種機能を使い、学校間の情報共有を図った。また、タイムカード機能を使った勤務時間管理を行った。 各種機能を使って、連絡事項のスムーズな伝達や教材の情報共有等を図ることができた。</p> <p>□校務支援ソフトの活用促進 校務支援ソフトを使い、児童生徒の日ごろの様子について学校全体で情報共有を図ったり、就学先への引継ぎ等に活用したりすることができた。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>若手・中堅教員研修の充実 近隣市町合同の研修会にとどまらず、井原市独自の研修会を実施して、一層の指導力向上やネットワークづくりを進める。</p> <p>ICT活用研修の充実 市内における一人一台端末活用の好事例を収集し、共有を図る研修を実施する。</p> <p>ICT支援員の活用 GIGAスクール構想による一人一台端末を含めたICT機器を効果的に活用した学習活動を継続するために、十分な知識を備えたICT支援員の配備が維持されるよう効果的に取り組んでいく。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>教師力の向上 目標指標から、先生方の努力により、児童生徒が授業をよく理解できており、各種事業の取組の成果が現れていると思います。全国学力・学習状況調査の結果などを分析することで、対応策を共有し、スキルアップに繋げていただきたい。</p>

1 - (6) 社会に開かれた教育課程の実現によるワーク&ライフキャリア教育の推進と井原“志”民力の育成

子どもたちが地域で活躍している大人たちとの「出会い」や「対話」を通し、魅力的な生き方について、子どもも大人も共に考えるとともに、自他の幸福や持続可能な地域の実現に向けて、今の自分のできることやこれから進むべき道について学び・考え・実践を図ります。

目標指標 (全国値を上回る) ※各年度の数値は 上段が全国値 下段が井原市	内容	現状値	R5	R6	R7	R8	R9
	将来の夢や希望を持っていますか。 (小学生)	78.0% (R3)	81.9% 85.6%				
将来の夢や希望を持っていますか。 (中学生)	75.6% (R3)	66.3% 67.2%					
地域や社会をよくするために何かを してみたいと思う。(小学生)	53.4% (R3)	76.8% 86.7%					
地域や社会をよくするために何か をしてみたいと思う。(中学生)	46.4% (R3)	63.9% 65.6%					

令和5年度中における取組状況と成果

□地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進による地域学校協働活動の充実
 市内全小学校区(13小・5中・1高 ※小は幼稚園も含む)に地域と学校が連携し、地域全体(地域住民、多様な機関・団体等の参画)で未来を創る子どもたちの成長を支えるひとづくりネットワーク運営協議会を設置して4年目を迎えた。各学校区ひとづくりネットワーク運営協議会及び各学校区協議会の代表者で構成する井原市ひとづくりネットワーク運営協議会における取組を拡充することで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標やめざす子ども像と、その実現に向けた学校運営や地域学校協働活動の在り方について検討及び企画・運営を進め、「持続可能な“まちづくり”を支える“ひとづくり”」に向け、積極的な取組が行われている。また、新たに、市内5小中学校がコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、ひとづくりネットワークとの一体的推進をめざした取組が開始されている。

□「ふるさと教育」「起業家教育」の視点を入れたカリキュラム・マネジメント研修の実施
 市内幼小中高の教職員を対象に、「ふるさと教育」及び「起業家教育」の視点を取り入れた総合的な学習の時間の取組を中心とした教育課程の在り方を検討するための研修会を開催した。各校や地域の実態に応じてふるさとの「もの」「ひと」「しごと」に出会い、関わる活動を積極的に取り入れるとともに、本市として取り組むべき「共通探究課題・素材」を設定することで、より意図的・系統的な総合的な学習の時間の年間計画及び単元計画作成に向けた契機となり、多くの好事例が生まれている。

- ・井原市カリキュラム・マネジメント研修会…3回
- ・テーマ別カリキュラム・マネジメント研修会…1回

	<p>□「非認知能力」育成プログラムの導入</p> <p>地域キャストや友達の話を参考にしながら自分の強みを見直したり今後の目標を立てたりすることで自己肯定感や意欲等の向上を図る Ancs プログラムの実施、幼稚園において井原デニムを活用した非認知能力育成プログラムの開発・導入を進めた。</p> <p>Ancs プログラムについては、原則として市内全小学校（複式学級は隔年）において実施することができ、多くの学校において担任によるファシリテートが行われるようになったことでプログラムの主体的実施に向けた体制整備が進むとともに、アセスメントシートの結果や体験した園児児童生徒・教職員の感想からプログラムの有効性を強く感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・aeru school 井原版 12幼 ・aeru school 井原版実践報告会1回 ・Ancs プログラム 13小(6年)、1中(2年)、1高(1年) ・ファシリテーション力向上研修会1回 ・ワーク&ライフ交流会 5中(1年もしくは2年) ・各校園における「非認知能力」に関する校内研修支援
<p>課題と対応策</p>	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進による地域学校協働活動の充実</p> <p>本事業も5年目を迎え、各学区において「ふるさと教育」や「起業家教育」の視点を取り入れた学習活動や地域活動が定着しつつある。今後は、新たにコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入した小中学校の取組を基盤にしつつ、既存のひとづくりネットワークとの一体的な推進を意図的に図りながら、令和7年度の市内全小中学校における導入完了をめざして準備を進めたい。</p> <p>「ふるさと教育」「起業家教育」の視点を入れたカリキュラム・マネジメント研修の実施</p> <p>各校において、本事業の趣旨を取り入れた学習活動が総合的な学習の時間に積極的に位置づけられている。今後は、総合的な学習の時間に留まることなく、他教科等の学習においても、総合的な学習の時間の取組で培った手法や工夫を横展開し、井原“志”民力(学びに向かう力・人間性等)を意識した授業改善が一層進むよう取組を拡充していきたい。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進による地域学校協働活動の充実</p> <p>教育課程の中に地域の方の協力・支援が入ることで、児童生徒の地域に対する思いが深まってきています。コミュニティスクールとひとづくりネットワークとの一体的な推進に努めていただきたい。</p>

2. 心と体を育てる教育の充実

2-(1) 心の教育の推進	
<p>自然、歴史、伝統、民俗、文化、人物など地域の特性に根ざした学習を学校の教育活動全体を通じて行い、子どもたちが生まれ育った地域への理解を深めることにより、郷土愛の醸成を図り、ふるさといばらの未来を創る人材の育成につなげます。</p>	
<p>令和5年度中における取組状況と成果</p>	<p>□地域教材を活用した道徳教育の推進 郷土の偉人等を題材とした教材を用い、児童生徒の実態に合わせ工夫して授業に活用するよう指導した。総合的な学習の時間とも関連を図り、地域の魅力、井原市の魅力について考え、まとめたことを「おかやま学びたい賞」で発信することができた。</p> <p>□学校司書の配置と読書活動の推進 学校図書館司書9人を配置し、自主研修活動を実施した。 内容：図書管理、推薦図書の紹介方法等。児童生徒への広報活動、朝読書の取組の充実、読書の時間の確保、家庭読書の充実等を各学校に呼びかけた。 司書同士の情報交換を行い、図書館教育の充実を図ることができた。</p> <p>□人権教育担当者研修会の開催 令和5年11月24日に「人権教育担当者研修会」を開催し、自殺予防教育学習プログラムについて理解を深めた。自己肯定感の向上、自他の尊重、多様性の尊重、困っている人への支援など、一人一人を大切にするという人権尊重の考え方を基盤にして、これからの教育活動の充実を図った。</p> <p>□情報モラルに関する指導の充実 県総合教育センター、県義務教育課等が作成した資料等を配布し、指導を徹底した。</p> <p>□体験活動の充実（地域学校協働活動を含む） ふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」に出会い、関わりながら、ふるさと井原の魅力や課題を知ったり、魅力拡大や課題解決に取り組んだりすることで体験活動の充実を図ることができた。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>情報モラルに関する指導の充実 保護者や地域にも情報モラルに関する理解の向上と、メディアと適切に関わることができるよう、連携して指導していく必要がある。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>地域教材を活用した道徳教育の推進 井原放送などでも拝見しましたが、「おかやま学びたい賞」の最優秀賞等の受賞など、市内の全小中学校が活躍できています。先生方の努力、指導あってのことであり、敬意を表します。</p>

2- (2) 健やかな体力づくりの推進

学校での体育の充実を図るとともに、健康教育の推進を通して子どもたちが望ましい生活習慣を身に付けることにより、生涯にわたりたくましく生きるための健康・体力づくりを推進します。

<p>令和5年度中における取組状況と成果</p>	<p>□体力づくり推進事業 小中学校全校で実施。その結果を各校で分析し、課題を明らかにし、体力向上の取り組みを行った。業間運動、岡山県主催の「チャレンジランキング」「体力アップ・マイベストチャレンジ!」への参加等、各校で自主的な取組を行った。幼稚園は4園、小学校は5校、中学校は1校県内で上位に入賞し、表彰された。</p> <p>□健康づくり優良児童生徒表彰 健康づくりに努力している児童生徒の表彰を行い、健康に対する関心と意欲を高めた。学校保健会において表彰を行った。小学校10人、中学校0人 計10人を表彰。児童生徒の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。</p> <p>□いばらっ子生活リズム向上プロジェクト 市内の保幼小中高を対象に実施した生活調査結果のフィードバック、生活リズム向上に関する各校園の年間取組計画の作成支援、教職員・保護者等を対象にした研修会の開催支援、啓発資材の配付等を通して、各学校園や家庭での生活習慣改善を促した。主テーマを「よく動く」と設定し、元環太平洋大学中尾教授との連携を進め、各校園での取組を支援したほか、県教育委員会が実施している「みんなでチャレンジランキング」への積極的な参加を呼び掛けた。 生活習慣に対する関心が高まり、「よく動く」子どもの育成に向けた各校園での実践が広がり、定着が見られる。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>体力づくり推進事業 「チャレンジランキング」等の取組において、熱中症対策として、活動場所において暑さ指数(WBGT)が31以上の場合は、運動を原則、中止にしている関係で、夏季においてほぼ毎日、業間休みや昼休みに運動が制限されている。年間を通じて行うことが難しいため、重点的に取り組む期間等の設定を検討する必要がある。また、各校に実態に合わせた種目を選ぶことも必要となる。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>いばらっ子生活リズム向上プロジェクト 「早寝、早起き、朝ごはん」の一層の推進など、継続した取り組みをお願いします。</p>

2 - (3) 不登校対策と生徒指導の充実

子どもたちが落ち着いた環境で意欲的に学ぶことができるよう、学習の基礎となる学級集団づくりを進めます。また、個々に応じた学習支援・生徒指導のためには、子どもと向き合う時間の確保が必要なことから、教職員の働き方改革を推進します。

不登校の未然防止と早期対応に向けて、SC、SSWを含めた組織体制の確立を進めるとともに、教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」を拠点に、不登校児童生徒の学校復帰を図ります。

目標指標 (全国値を下回る) ※対象年度の数値 上段が全国値 下段が井原市	内容	R4	R5	R6	R7	R8	R9
	不登校の出現率 (小学校)		1.70%	2.14%			
		1.66%	2.06%				
不登校の出現率 (中学校)		5.98%	6.71%				
		4.86%	4.61%				

令和5年度中における取組状況と成果	<p>□不登校児童生徒の適応指導対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」において、不登校児童生徒に適応指導を行った。小学生8人、中学生19人が通室した。 （スクールカウンセラー配置事業） ・県の事業により、スクールカウンセラーを全小中学校に配置した。 （スクールサポーター配置事業（中学校）） ・スクールサポーター3人を配置し、中学校5校の生徒の教育相談、教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」との連絡調整等に当たった。 （訪問カウンセリング事業） ・訪問カウンセラー1人を配置し、学校や不登校傾向をもつと思われる児童生徒の家庭等を必要に応じて訪問し、指導を行い、不登校の未然防止に努めた。 （問題行動対策コーディネーター配置事業） ・問題行動対策コーディネーター1人を配置し、学校や教育支援センター（適応指導教室）「大山塾」、その他関係機関との連携強化を図り、不登校児童生徒の自立を支援した。 （登校支援員・別室支援員配置事業） ・登校支援員・別室支援員を配置し、不登校傾向のある児童の登校支援や学習支援、保護者等に対する相談支援を、教職員と協力しながら行った。（高屋小、西江原小、井原小、出部小） <p>しかし、不登校児童生徒の出現率は、小学校は上昇した。長期欠席・不登校は本市における生徒指導上の一番の課題であり、未然防止に向け学校や関係機関と連絡を取りながら課題解決に向けた取組を行った。</p> <p>（不登校対策実践研究事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県から不登校対策別室指導教員の配置により、教室に入りにくい生徒のための専用の教室「きぼうの教室」を井原中学校に設置し、個々に学力保障をするなど、個別の課題に対応することができ、長期欠席・不登校の未然防止につながっている。令和5年度は、井原中学校全体で15人の生徒が利用した。
-------------------	---

	<p>□落ち着いた学級づくり支援事業の充実</p> <p>年2回、児童生徒を対象に、学級内での子ども同士の間関係についてアンケート調査を実施し、いじめや不登校の早期発見及び未然防止を図るとともに、学級崩壊を予防し、よりよい学級集団づくりを推進した。</p> <p>調査結果から支援の必要な児童生徒を把握することで、改善に向けた対策を個別に講じることができた。</p> <p>□ネットとスマホの利用改善の推進</p> <p>スマホ・ネットに関する保護者向け啓発チラシを配布するなどし、保護者に対して意識の向上を図った。学校では、児童生徒の自主的なルールづくりを行い、家庭でのルールづくりも進めるよう努めた。児童生徒にルールづくりの必要性について考えさせた。保護者向けの研修会を各校園で行い、利用時間のルールづくりの啓発を行うことができた。</p> <p>□いじめ問題対策連絡協議会の開催</p> <p>令和5年5月27日に「井原市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係機関といじめ問題について共通理解を図った。各校の事案ごとに、学校・関係機関等と連携しながら対応し、それぞれ解消に向け取り組むことができた。</p> <p>□児童虐待の防止（井原市要保護児童対策地域協議会との連携）</p> <p>学校、子育て支援課、児童相談所等と連絡や協議を行いながら児童虐待の防止に努めた。</p> <p>□ヤングケアラーへの支援（関係機関との連携）</p> <p>本市において、ヤングケアラーとして、過度に負担を感じている児童生徒の報告は受けていない。相談しやすい雰囲気づくりを前提に、各校で行っている個別の教育相談や生活ノートによる児童生徒からの訴え等によるものなどから、学校生活の小さな変化を見逃さないよう児童生徒観察を注意深く行った。また、学校、子育て支援課、児童相談所等との連絡を図りながら、早期発見に努める。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>不登校児童生徒の適応指導対策事業</p> <p>学校で子どもたちが自分の居場所があると感じられる発達支持的生徒指導を行うことで未然防止に努め、各関係機関と連携を図りながら不登校出現率が昨年度以下になることを目指す。</p> <p>不登校児童生徒に対しては引き続き教育支援センター(適応指導教室)「大山塾」等と連携を取り、学校への復帰を目指す。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>いじめ問題対策連絡協議会の開催</p> <p>積極的な認知を心がけていることから、件数は増加傾向とのことですが、引き続き、関係機関等と連携し、重大化の防止に努めていただきたい。</p>

2 - (4) 基本的な生活習慣の定着

子どもたちが災害に適切に対応できる実践的な態度や能力を養うため、防災教育や避難訓練の充実を図るとともに、防犯教室の開催等により児童生徒の危険回避能力を高める取組を進めます。

学校給食センターと連携して食育の推進を図り、子どもたちが生涯にわたりたくましく生きるための健康・体力づくりを進めます。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	毎日朝食を食べている小学生の割合	94.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		(R3)	94.0%				
	毎日朝食を食べている中学生の割合	88.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		(R3)	87.1%				

令和5年度
中における
取組状況と
成果

□防災教育の推進

学校の危機管理マニュアルや防災計画の確認とともに、定期的な避難訓練等の実施について指導した。

各校の実態に合わせた計画のもと、防災意識の高揚に効果があった。

□交通安全教育の充実

各校・園において交通安全教室を年間2回程度実施した。幼児・児童・生徒の交通安全意識の向上が図られ、事故件数は令和4年度の8件と、同数だった。

□防犯意識の高揚と啓発活動

各校・園において防犯教室を年間1～2回実施した。

幼児・児童・生徒の防犯意識の向上が図られた。

□薬物乱用防止教育等の推進

各校において、警察職員等を講師とした薬物乱用防止教室を実施した。

計画的に実施しており、定着化を進めることができています。

□栄養教諭による食育の推進

学校給食センターは栄養教諭2人体制、美星調理場は栄養教諭1人体制で、積極的に学校園へ出向き、給食を活用した食に関する指導を行い、食育の推進を図った。給食を生きた教材として、食育指導を実践し児童・生徒に効果的な指導を行うことができた。

□学校給食における食物アレルギーへの対応

食物アレルギー調査を実施し、除去食の提供や、アレルギー記載予定献立表の作成及び教育委員会ホームページでの掲載を実施した。食物アレルギー対応マニュアルに基づいた対応を進めるため、各校との共通理解を図った。

□食育講座の開催

学校園での保護者を対象とした試食会及び園児・児童・保護者を対象とした調理場見学会を開催した。

<p>課題と対応策</p>	<p>交通安全教育の充実 事故発生件数は前年度と同数だったが、事故発生原因の割合として、自転車による飛び出しが多いため、引き続き安全教育の充実を図るとともに、努力義務化されているヘルメット着用の啓発を継続して行う必要がある。</p> <p>学校給食における食物アレルギーへの対応 井原市学校給食等における食物アレルギー対応方針について、教職員・保護者・医師・給食関係者等がより共通理解を深められるよう、研修等を継続して行う。</p> <p>食育講座の開催 各学校園と協議を行いながら、試食会及び見学会の実施回数の増加に努める。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>学校給食における食物アレルギーへの対応 除去食の提供やアレルギー記載予定献立表の作成など、引き続き、細やかな対応をお願いします。</p>

3. 学校・家庭・地域の連携による人づくり

3 - (1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成	
地域住民の参画による学校教育支援、放課後等の活動支援、家庭教育支援を効果的に推進し、地域・社会全体で子どもを健やかに育む機運の向上と体制の整備を進めます。	
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□ふるさと井原魅力発見事業 (小6：平櫛田中美術館・古代まほろば館見学、小4：美星天文台・デニム工場見学等) 児童を対象に、平櫛田中美術館の見学や古代まほろば館での体験学習、美星天文台の見学と井原市主要産業(井原デニム)工場見学等を実施し、ふるさと井原の魅力を発見し、自信と誇りを持たせるとともに、豊かな体験を通じた道德性の育成を図った。各校は工夫や協力をして、豊かな体験活動を行った。活動前には目的について事前指導を行い、活動後は振り返りを行い、自分たちの大きな成長を確認できた。</p> <p>・実施校 小6:12校(県主小以外) 小4:11校(稲倉小・県主小以外)</p> <p>□スポーツふれあい交流事業「夢の教室」(小5) 夢をかなえるために努力した日本のトップアスリートを「夢先生」として派遣し、夢を持つことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さ等を学ばせた。児童はトップアスリートに接することで、夢を持つことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学べた。</p> <p>・実施校、コマ数・・13校、11コマ(R5年度～対面で実施)</p>
課題と対応策	<p>スポーツふれあい交流事業「夢の教室」 児童数の減少に伴い、複数校での合同開催など、より効果的な実施を進めていくことが必要である。</p>
有識者による評価意見等	<p>スポーツふれあい交流事業「夢の教室」 世界レベルの技を見せてくれたり、アスリートが努力して、夢を追うことの素晴らしさを語ってくれたりする場を、体験することができる機会は、児童への良い経験となっていますので、継続して実施していただきたい。</p>

3-(2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化

子どもたちの教育を取り巻く環境が大きく変化するなか、学校・家庭及び地域がそれぞれの役割を自覚し、連携のもと教育効果が高められるよう、学校や教育委員会が行う取組の情報提供を進めます。

令和5年度中
における取組
状況と成果

□地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進による地域学校協働活動の充実

市内全小学校区(13小・5中・1高 ※小は幼稚園も含む)に地域と学校が連携し、地域全体(地域住民、多様な機関・団体等の参画)で未来を創る子どもたちの成長を支えるひとづくりネットワーク運営協議会を設置して4年目を迎えた。各学区ひとづくりネットワーク運営協議会及び各学区協議会の代表者で構成する井原市ひとづくりネットワーク運営協議会における取組を拡充することで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標やめざす子ども像と、その実現に向けた学校運営や地域学校協働活動の在り方について検討及び企画・運営を進め、「持続可能な“まちづくり”を支える“ひとづくり”」に向け、積極的な取組が行われている。また、新たに、市内5小中学校がコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、ひとづくりネットワークとの一体的推進をめざした取組が開始されている。

・各学区ひとづくりネットワーク運営協議会…(実態に応じて)1~5回

※学校運営協議会を含む

・各学区ひとづくりネットワーク懇談会…(実態に応じて)1~3回

※学校運営協議会熟議を含む

・井原市ひとづくりネットワーク運営協議会…2回

・井原市ひとづくりネットワーク懇談会…1回

・コミュニティ・スクール…高屋小・西江原小・野上小・芳井小・芳井中・市立高校

※芳井小・芳井中は合同協議会

□学校支援ボランティアの活用

各校において、放課後等の学習支援、各教科、道徳、総合的な学習の時間等における学習支援ボランティアを各学区ひとづくりネットワーク運営協議会や学校運営協議会、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)と連携して募集し、児童生徒の学習活動の支援するための体制づくりを進めた。小中学校においては、各校や地域の実態やニーズに合わせて地域人材を積極的に活用した新たな取組も多く生まれ、成果を上げることができた。

□学校評価の積極的活用

幼・小・中・高で各学校・園の取組について、学校評価を実施し、成果と課題を明らかにした。幼・小・中・高で学校評価(自己評価、学校関係者評価)を実施し、成果や課題を把握することができた。

□学校運営協議会の推進

学校運営協議会を設置した学校が小学校4校、中学校1校となり、保護者や地域の関係者が一定の権限をもち学校運営に参画することで、学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組が進んでいる。

□新部活動の地域移行の推進

木之子中学校卓球部、美星中学校野球部にそれぞれ部活動指導員を配置した。

	<p>部活動における指導の充実、教員の負担軽減が図られた。また、地域におけるスポーツ文化環境整備の一環として、井原地域クラブネットワークを創設した。</p> <p>□教育広報誌（ともなび）の発刊</p> <p>学力・学習状況調査の結果や文化・スポーツ関連行事の様子など、本市の教育の現状など様々な情報を発信することができた。</p> <p>■学校ホームページの充実</p> <p>すべての小・中・高等学校でホームページを立ち上げ、各種情報を提供することになっているが、細やかな更新には至っていない。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進による地域学校協働活動の充実</p> <p>本事業も4年目を迎え、地域と学校の連携・協働体制の構築が進んでおり、各学区において「ふるさと教育」や「起業家教育」の視点を取り入れた学習活動や地域活動は積極的に導入され、井原“志”民力の向上につながっている。</p> <p>今後は、新たにコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入した小中学校の取組を基盤にしつつ、既存のひとづくりネットワークとの一体的な推進を意図的に図りながら、令和7年度の市内全小中学校における導入完了をめざして準備を進めたい。</p> <p>学校ホームページの充実</p> <p>保護者や地域の方に学校の取組を理解頂けるよう、魅力的なホームページの作成に努める必要がある。また、情報提供が適宜行えるよう、適時の更新に努めていく必要がある。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>学校ホームページの充実</p> <p>ICT 支援員の活用など、新しい情報の発信に努めていただきたい。</p>

2. 心豊かで郷土を愛する人を育む生涯学習

(生涯学習・社会教育の充実)

1. 学校・家庭・地域の連携による人づくり

1 - (1) 郷土愛の醸成・非認知能力の育成

変化が激しく、予測が困難な今、そして未来を、自分らしく、幸せに生き抜くためには、与えられる知識・技能、価値観を受け入れて蓄積するだけの受動的な資質・能力だけではなく、身に付けた知識・技能を駆使して多様な人々と協働しながら課題を克服したり新たな価値観を創り出したりする能動的な生き方につながる資質・能力が不可欠です。

そのためにも、子どもも大人も生まれ育ったふるさとを心の拠り所とし、自分らしさや地域らしさを認識したり、働くことや生きること、自他の幸せの在り方を考えたりする機会や、個々の能力を発揮してよりよい未来の実現に主体的に関わることでできる場づくりを通して、郷土愛の醸成や非認知能力の育成を進めていくことは、社会の重要なミッションと言えます。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	将来の夢や目標を持つ小学生の割合(肯定率)	78.0% (R3)	85.0% 85.6%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%
	将来の夢や目標を持つ中学生の割合(肯定率)	75.6% (R3)	76.0% 67.2%	76.0%	76.0%	76.0%	76.0%
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】</p> <p>自分とふるさと井原を愛し、よりよい未来のために実行できる人財『井原“志”民』の育成に向け、『ワーク&ライフキャリア教育』の推進による『井原“志”民力』の向上をめざし、学校教育・社会教育の横のつながりと、就学前教育から義務教育、さらには高校教育や大学教育の縦のつながりを一層意識しつつ、新たに「家庭教育の支援」と「読書活動の推進」を整理・統合した6つの柱に掲げる取組を促進してきた。</p> <p>市内全小学校区(13小・5中・1高 ※小は幼稚園も含む)に地域と学校が連携し、地域全体(地域住民、多様な機関・団体等の参画)で未来を創る子どもたちの成長を支えるひとづくりネットワーク運営協議会を設置して4年目を迎えた。各学校区ひとづくりネットワーク運営協議会及び各学校区協議会の代表者で構成する井原市ひとづくりネットワーク運営協議会における取組を拡充することで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標やめざす子ども像と、その実現に向けた学校運営や地域学校協働活動の在り方について検討及び企画・運営を進め、「持続可能な“まちづくり”を支える“ひとづくり”」に向け、積極的な取組が行われている。また、新たに市内5小中学校がコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、ひとづくりネットワークとの一体的推進をめざした取組が開始されている。</p> <p>令和5年度は、市制施行70周年記念の節目の年であり、「夢&志づくり応援Laboratory『ゆめここ☆ラボ@井原』」の取組として中高生企画委員を組織し、式典の企画・運営・進行を担当したり、中高生アイデア実現プロジェクトとして記念ソング</p>						

の制作やSDGsロゴマークの制定等を行ったりするなど、若者の活躍の場づくりを進め、子どもから大人まで幅広い年代を対象に、よりよい未来の実現に向けて共に学び、共に創る共学共創の場づくりを目指した取組へと発展させるよう努めた。

◎柱1：ひとづくりのまち井原の発信

- ・井原市ひとづくり推進本部の開催…1回
- ・井原市ひとづくり実行委員会の開催…3回
- ・井原市まち&ひとづくりフェスタの開催…1回
- ・井原“志”民力等調査の実施…1回(小学4年生以上の児童生徒)
- ・本事業に係るホームページ及びリーフレットの作成・周知
- ・井原“志”民塾・公開講座の開講
 - …7講座(リアル4講座・オンライン3講座)のべ339人参加
- ・井原市制施行70周年記念中高生アイデア実現プロジェクト
 - *企画・運営『夢&志づくり応援 Laboratory～ゆめここ☆ラボ@井原～』
 - ◇中高生企画委員…R5年度末現在登録者数21人
 - ◇主な活動
 - 「藤川千愛さんと井原市オリジナル記念ソングつくっちゃおう!」
 - …記念ソング『普通じゃない世界を知らなかった僕ら』制作・発表
 - 「井原市オリジナル SDGs ロゴマークつくっちゃおう!」
 - …井原市オリジナル SDGs ロゴマーク制定・発表、ピンバッジ作成
 - 5/27「井原市制施行70周年記念式典」
 - …第1部司会進行・第2部企画・運営・進行
 - 「マイ SDGs プロジェクト」企画・募集
 - …ロゴマークをデザインしてステッカー制作・配付
 - ・中高生を中心とした井原市公認ふるさと井原魅力化団体『Team 夢源♡井原』の運営
 - ◇夢源 Makers(中高生)…R5年度末現在登録者数6人
 - 夢源 Supporters(大学生・一般)…R5年度末現在登録者数45人

◎柱2：社会に開かれた教育課程の実現

- ・井原市カリキュラムマネジメント研修会の開催…3回
- ・テーマ別カリキュラムマネジメント研修会の開催…1回
- ・岡山県教育委員会主催「おかやま学びたい賞」に学習活動を出品
 - ◇最優秀賞:青野小
 - ◇奨励賞:県主小、井原小、井原中、美星中、芳井中
- ・ワーク&ライフ職場体験の実施
 - ◇事業所に出向いての職場体験…5中学校2年生283人、受入延べ119事業者
 - ◇ワーク&ライフ交流会の実施(ゲストを招聘しての対話・交流会)
 - …5中学校1年生もしくは2年生292人、地域キャスト延べ41人参加
- ・非認知能力育成プログラムの導入・実施

- ◇aeru school井原版…12幼稚園
- ◇aeru school 井原版実践報告会…1回
- ◇Ancs プログラム…13小学校(6年)、1中学校(2年)、1高校(1年)
- ◇ファシリテーション力向上研修会…1回

◎柱3：地域社会・企業との連携

・地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業の推進

- ◇各学校区ひとづくりネットワーク運営協議会の開催
 - …(実態に応じて)1~5回 ※学校運営協議会を含む
- ◇各学校区ひとづくりネットワーク懇談会の開催
 - …(実態に応じて)1~3回 ※学校運営協議会(拡大)熟議を含む
- ◇井原市ひとづくりネットワーク運営協議会の開催…2回
- ◇井原市ひとづくりネットワーク懇談会の開催…1回
- ◇コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入校数
 - …6校:高屋小・西江原小・野上小・芳井小・芳井中・市立高校
 - ※芳井小・芳井中は合同協議会

・ひとづくり関係人口の拡大

- ◇井原Lovers登録者数(R5年度末現在)…101人

◎柱4：高等学校及び大学との連携

・市内3高校との連携促進・魅力化支援

*企画・運営『夢&志づくり応援 Laboratory~ゆめここ☆ラボ@井原~』

◇主な活動

- 井原市立高校総合的な探究の時間等の支援
 - …井原市ひとづくりコーディネーター派遣(原則週1回)
- 県立井原高等学校総合的な探究の時間等の支援
 - …1年生『デニム学』(企画・進行、地域キャスト選定・派遣)
- 市内中高校生の活躍の場を創出
- 中高生活動支援

IBARA “D” Lab

…県立井原高等学校の有志生徒で構成。市内事業所とコラボした商品(抹茶を使用したスイーツ・ドリンク)を開発して販売

IBAR “ACT”

…県立井原高等学校の有志生徒で構成。メンバーが好きな歌を用いて動画を撮影・配信して井原市を元気にする活動を展開。

イノベーションハーバー

…井原市立高等学校の有志生徒で構成。若者の居場所づくりや異文化交流につながる取組を展開。

・大学との連携

- ◇岡山大学教養科目『地域の未来デザイン』開講支援

○座学編(受講生121人)

…学生が井原市を題材に地域創生を学び、井原市の魅力拡大や課題解決策の案をまとめて企画プレゼンテーションを実施

○実践編(受講生29人)

…学生が井原市の魅力拡大に向けたプロジェクトを立案し、本市を訪れて実践[ウォークラリー・名物ビンゴ]※市民13人参加

◎柱5) 家庭教育の支援

・子育て支援体制の整備(学校園、公民館、子育て支援課、健康医療課及び市民ボランティア等との連携・協力(井原子育てネットワーク協議会))

子育てネットワーク協議会を年2回開催し、ライフステージに応じた課題別子育て講座、子育てサポーターの活動支援等について協議し、企画・運営を行った。いくつかの子育て支援事業では、福祉部局等と教育委員会が連携して開催することができた。

◇子育てサポーター登録者数 27人

◇託児件数 7件

・子育てに関する学習機会の拡充

◇妊娠期子育て講座 4回 参加者延べ 12人

◇幼児期子育て講座 19回 参加者延べ 790人

◇学童期子育て講座 17回 参加者延べ 1,228人

◇思春期子育て講座 2回 参加者延べ 452人

◇その他の機会を活用した子育て講座 年2回 参加者延べ25組

各校園やPTA、福祉部局の事業において、ライフステージの課題に応じた子育て講座が開催された。

・親育ち応援学習プログラムの活用と推進

小学校5校、中学校1校において親育ち応援学習プログラムを実施し、参加者が交流しながら子育てについて学び合う機会を提供することができた。

・子育てイベントの実施

子育てフェスタ「ゆかいなコンサート」、子育て交流会「つながり広がる子育ての輪」を開催した。

・家庭教育学級(中央・各地区)、幼児教育学級、婦人学級等の支援

中央家庭教育学級では、くらしと人権講座と兼ねる形で学習会を行い、親として子どもの自立に向けた学習と学級運営に必要な知識・技術を高めるための学習を行った。各地区の学級では、伝統を守りつつ新しい考えも取り入れた活動が行われている。しかし少子化・負担感・価値観・意欲の減退等による参加者の減少により活動が休止となっている学級がある。負担感を軽減するための運営の助言や情報提供を行った。

◎柱6) 読書活動の推進

・第4次井原市子ども読書活動推進計画に基づく事業の推進

読み聞かせボランティア講座 全5回開催 延べ93人参加

絵本への興味を高め、またボランティアの資質向上を図ることができた。

	<p>年齢別絵本ガイドを530部作成し、児童会館など子育て関連施設に配付。</p> <p>ブックスタート事業として4か月児健康診査の際にブックスタートバッグを174人に贈呈。絵本を介して、ふれあいと読書のきっかけをつくった。</p> <p>またフォローアップとして、2歳児健康診査の際に206人に読書手帳を配布するセカンドブック事業を実施した。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業</p> <p>今年度から新たに加わった「家庭教育支援」と「読書活動推進」については、今まで以上に関係各課、団体等と連携を深めながら、取組の拡充を図る必要がある。</p> <p>井原商工会議所等をはじめとする企業・事業所との連携を深め、地場産業の魅力拡大・発信や、若者の夢や志の実現を支える環境づくりを進め、『若者に選ばれるまちづくり』につながる取組を拡充したい。</p> <p>井原"志"民力等調査の結果（成果と課題）について共有を図り、学校・地域・家庭（産学官民）で改めて共通目標とベクトルをしっかりと合致させることで、目標達成に向けた連携・協働体制を一層強化する必要がある。</p> <p>家庭教育の支援としては少子化や価値観の変化により、活動支援のニーズにも変化があるが、今後も子育てに関する学習の機会の提供や、子育てに関する交流会を開催する中で時代に応じた子育てに対応する必要がある。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業</p> <p>『井原“志”民』の育成に向けた様々な事業を積極的に取り組まれており、良い活動ができていていると思います。</p>

1 - (2) 学校・家庭・地域の連携協働体制の強化							
<p>人口減少や少子高齢化、人口の都市一極集中による地方の過疎化が進む中、地方においては持続可能なまちづくりを支える人づくりが最重要課題のひとつです。</p> <p>そのような人づくりは、学校教育のみで実現できるものではなく、学校・家庭・地域が、共通の目標である「ふるさと未来像」に基づいた「目指す子ども像」の実現に向け、それぞれのあるべき姿や果たすべき役割を明確にしなが、『地域とともにある学校づくり』及び『学校(子ども)を核とした地域づくり』を両輪としてとらえ、地域総ぐるみで未来を創る子どもたちの成長を支える連携・協働体制(ネットワーク)の構築が不可欠です。</p>							
目標指標 <small>※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値</small>	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	コミュニティ・スクール 導入校数	0校 (R3)	— 6校	—	19校	19校	19校
	放課後子ども教室 実施学区数	9学区 (R3)	13学区	13学区	13学区	13学区	13学区
			9学区				
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】</p> <p>◎柱2) 社会に開かれた教育課程の実現(再掲)</p> <p>◎柱3) 地域社会・企業との連携(再掲)</p> <p>◎柱4) 高等学校・大学との連携促進(再掲)</p> <p>◎柱5) 家庭教育の支援(再掲)</p> <p>□放課後子ども教室事業の実施【未来を担うひとづくり推進事業②】</p> <p>地域の参画により子どもたちの居場所を作り、スポーツや体験活動などの事業を実施(9団体)。各地区、子どもたちの健全育成を図ることができた。</p> <p>□井原市連合少年団協議会の活動支援</p> <p>主催事業の「ジュニアリーダー養成講座」を「第1回連少デイキャンプ大会」として1泊からデイキャンプへと内容を変更して行い、児童63人が参加した。また、「少年レクリエーション大会」も行い、209人が参加した。</p> <p>□美星っ子づくり協議会の活動支援</p> <p>美星地区の子どもたちの健全育成を目的として、星の子読書フェスティバル、美星っ子夢フェスティバル、星の郷ワクワク体験クラブを実施した。</p> <p>それぞれ来場者は180人、198人、35人で、地域として子どもたちの活動を支援した。</p> <p>□友好親善都市児童交流事業(魚津市・大田原市)の実施</p> <p>3日間の日程で、魚津市の児童の歓迎及び大田原市への訪問を行った。</p> <p>魚津市(歓迎) 井原市児童20人、魚津市児童20人 参加 大田原市(訪問) 井原市児童13人、大田原市児童19人 参加</p>						

	<p>□二十歳のつどいの実施 式典と記念行事を実施し、二十歳の対象者283人の参加があった。 (出席率 71.1%)</p> <p>□地区青少年を育てる会等の活動支援 市内13地区において、それぞれの特色を生かした取り組み(子どもの見守り、危険箇所の点検、青少年と高齢者との交流等)が行われている。各団体へ6万円ずつ補助金を交付し、これらの活動を支援した。</p> <p>□青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進 青少年育成センターでは、青少年健全育成大会(及び社会を明るくする運動推進大会)を開催するとともに、市内の青少年の健全育成に携わる各種団体・機関と協働して、街頭啓発などの健全育成事業を実施した。また、市内の補導活動、バス・列車を使い近隣市町村まで往復する広域補導を行った。 教育相談室の事業としては、随時相談を受け付け、さらに毎月第3金曜日を特別教育相談日とし、より専門的な相談ができる機会を提供した。</p>
課題と対応策	<p>井原市連合少年団協議会の活動支援 コロナ禍による休止期間を経て、事業内容を宿泊型研修会から日帰り研修会で再開したところ、新たな課題として、自主運営型の研修会を敬遠する保護者も出てきており、少子化の問題と合わせ、更に検討を重ね、事業を見直す必要がある。</p>
有識者による 評価意見等	<p>井原市連合少年団協議会の活動支援 事業内容を見直しての実施であったが、今後も児童のニーズを把握しながら、魅力ある事業を実施していただきたい。</p>

1 - (3) 家庭や地域の教育力の向上							
<p>少子化が進んでおり、妊娠時から出産に対する悩みや不安を抱える妊婦も少なくありません。また、乳幼児期の子育ての不安を相談したり、交流したりする機会が減少し、若い保護者の孤立化が心配されます。インターネットなどの大量な子育て情報に接し、子育てに困難さを感じている保護者もいます。</p> <p>子どもが成長過程で段階的に身に付けるべき能力や体力について、専門家のアドバイスや親同士の交流は、保護者に大きな自信を与えます。近年の外遊びの減少や体力の低下は、基本的な生活習慣の乱れと深く結び付いています。規則正しい生活リズムの確立が重要です。</p> <p>また、青少年の体験活動や地域行事への参加は、人格形成にとって重要です。それぞれの家庭の実態に寄り添った支援が必要です。そのためには、地域全体で子育てに関わる仕組みを整えることが大切です。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	子育て講座開催数 (保・幼・小・中)	10回	40回	50回	50回	50回	50回
		(R3)	38回				
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】</p> <p>◎柱5) 家庭教育の支援(再掲)</p> <p>◎柱6) 読書活動の推進(再掲)</p>						
課題と対応策	<p>子育て支援体制の整備</p> <p>子育てサポーターについては、託児要請のある行事が減っていて活動機会が減少している。子育てイベント等、活動の場を増やしていくとともに、引き続き新たな人材の発掘と養成に努めたい。</p> <p>家庭教育学級・幼児教育学級等の支援</p> <p>家庭教育学級・幼児教育学級への参加者数は、役員となった場合の負担感などから減少傾向にあり、各学級のあり方や運営方法について検討をすすめる必要がある。各学級等の学習機会の提供については、中央公民館や市の事業での研修会や動員が、学級離れの大きな要因となっているため、動員が通例となっていた行事を見直し、削減するとともに、くらしと人権講座等と連携するなど、参加しやすい学習環境の整備に努めたい。</p>						
有識者による評価意見等	<p>子育て講座開催数</p> <p>開催数も増え、新型コロナウイルス感染症感染拡大前の状況に戻りつつあるので、目標値達成に向けて、内容を工夫しながら、事業を推進していただきたい。</p>						

2. 生涯学習の充実

2-(1) 生涯学習によるまちづくりの推進							
<p>市民と行政が協働でまちづくりを進めていくために開催している「いきいきいばら出前講座」の充実や「まなびめいと」の活動支援、また、『ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業』の実施により、地域と学校の連携・協働による「井原“志”民」の育成と「志縁コミュニティ」の形成を促進するなど、市民が生涯学習を通して学んだ成果をまちづくりや人づくりに生かすことができるよう、支援や指導を充実させる必要があります。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	井原“志”民塾開催回数	6回 (R4)	20回	20回	20回	20回	20回
			7回				
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業【未来を担うひとづくり推進事業①】</p> <p>◎柱1) ひとづくりのまち「井原」の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市まち&ひとづくりフェスタの開催(再掲) ・井原“志”民塾・公開講座の開講(再掲) <p>□生涯学習推進本部の機能の充実</p> <p>生涯学習関連事業を網羅した、生涯学習ガイド「まなびすと」などを通じて情報提供をすすめ、生涯学習の推進を図った。</p> <p>行政内部の関係部署との連携を図り、効果的な情報収集と情報提供ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクの充実 <p>専門知識や技術を身につけた指導者やボランティアの方に、びんご人材ネットワーク「まなびんご」への登録を促し、地域での学習会などに紹介・派遣するなど、活躍の機会や場を提供した(備後圏域での登録者総数 126 人のうち市内の登録者が7人)。</p> <p>□生涯学習関連事業の把握と総合的な推進</p> <p>「井原市生涯学習基本構想・基本計画」に基づき、ライフステージに応じた学習機会の創出や生涯学習推進のための体制づくりを計画的に進めた。</p> <p>アクティブライフ井原を拠点として、生涯学習に関する各種情報を収集・整理し、学習内容・施設の情報など適切な学習情報の提供を行った。また、収集した情報を活用した学習相談体制の充実を図った。</p> <p>□学習情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ガイド「まなびすと」 <p>公民館や生涯学習関連施設等へ 350 部作成し配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども情報誌「でんしょぼと」等の作成 <p>年 3 回各 5,500 部作成し、市内保幼小中学生、教職員、公共施設に配布</p>						

	<p>□計画的な社会教育主事の育成</p> <p>計画的に社会教育主事講習を受講し、有資格者を配置している。</p> <p>社会教育主事講習 (平成22年度1人、24年度1人、26年度1人、28年度1人、30年度1人、 令和3年度1人、5年度1人)</p>
課題と対応策	<p>生涯学習推進本部の機能の充実</p> <p>生涯学習推進の取組は多岐に渡るため、行政内の各部署間の連携を密にし、さまざまな施策・事業を効果的に組み合わせ、相乗効果を発揮させることが重要である。引き続き、重複する施策等の選択と集中を経て、俯瞰的視野に立って各事業を効果的に推進していく。</p>
有識者による 評価意見等	<p>学習情報の発信</p> <p>子ども情報誌「でんしょぼと」等、毎回よく企画を練られ、いいものができています。引き続き、積極的な情報発信に努めていただきたい。</p>

2-(2) 魅力ある学習機会の提供と環境づくり

市民の価値観やライフスタイルが多様化する中、市民の様々なニーズに応える学習や多岐にわたる現代的課題に対応した学習機会の提供及び文化・芸術活動、スポーツの更なる振興が求められています。市民が気軽に参加でき、楽しく学習・交流を深めることができる参加・体験型学習の推進にも努める必要があります。

併せて、新たな市民の学習ニーズの把握に努め、ライフステージに応じた生涯学習の普及啓発を図るとともに、地域課題解決型の講座を取り入れるなど、講座内容を精選・工夫して展開することも求められています。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
			144,000人	144,000人	144,000人	144,000人	144,000人
※各年度の数値は 上段:目標値 下段:実績値	地区公民館利用者数	142,808人(R3)	114,758人				
			100件	110件	120件	130件	140件
	いきいきいばら出前講座派遣件数	(R3)	108件				
			35団体	38団体	38団体	38団体	38団体
	まなびフェスタ参加団体数	(R4)	37団体				
			4人	110人	120人	130人	140人
	成人大学講座受講者数	(R3)	106人				
			667人	670人	670人	670人	670人
	寿大学院、芳寿大学、美星長寿学級の申込者数	(R3)	612人				
			677人	450人	900人	450人	900人
芳井生涯学習センター芸術文化事業入場者数	(R4)	313人					
		1,495人	11,000人	11,000人	11,000人	11,000人	11,000人
星の郷ふれあいセンター利用者数	(R3)	4,051人					
		5.7冊	6.2冊	6.4冊	6.6冊	6.9冊	7.1冊
人口1人当たりの図書館図書貸出冊数	(R3)	6.8冊	—	—	—	—	
		45,796人(R3)	47,000人	47,000人	47,000人	47,000人	47,000人
アクティブライフ井原・芳井生涯学習センター利用者数	(R3)	60,941人					

令和5年度中における取組状況と成果	□成人大学講座の開設 初心者向けスマートフォン講座を12講座実施。延参加者106人。
	□高齢者学級の開催 井原・芳井・美星の高齢者大学の各学級でそれぞれの会場において学習会を開催し、多くの方に受講してもらう機会を提供することができた。 寿大学院 申込者数177人 芳寿大学 申込者数270人 美星長寿学級 申込者数144人 むつみ会 11回 申込者数21人
	□図書館蔵書の充実 蔵書数 331,150冊 井原(さくら号含む) 209,175冊、芳井 71,887冊、美星 50,098冊 計画的に蔵書を購入し、蔵書の充実を図ることができた。

□地域の特徴を生かした開かれた公民館活動の推進

・地域の特徴を生かした開かれた公民館活動の推進

地域における生涯学習の推進、まちづくりや福祉事業の拠点施設として活用されており、各地域で特色のある事業が展開されている。

年々、各地域の活動が活発になっており、公民館活動の推進を図ることができた。

・講座生・各種グループや地域団体との共催による地域課題解決等の諸講座の開設（学びの輪の拡大⇒まちづくり）

まちづくり協議会、青少年を育てる会、民生児童委員協議会などと連携し、地域課題解決とまちづくり推進のための講座等を実施した。

□パソコン講座等の支援（貸出用パソコンの活用）

木之子公民館、井原公民館、芳井公民館でパソコン講座を実施した。

また、公民館を利用するパソコン同好会などの自主グループに、ノートパソコンの貸し出しを行った。

□青少年団体等の指導者育成（PTA指導者研修会）

県が主催するPTA等指導者研修会（Web形式）に市内幼・小・中の保護者、教職員20人が参加した。

□生涯学習の成果発表の機会づくり

・生涯学習の集い「まなびフェスタ in いばら」の開催

1月28日に生涯学習の集い「まなびフェスタ in いばら」を生涯学習体験に重点を置いた内容に構成変更し、開催した（参加団体数 37）。大勢の参加がある恒例の行事となっており、生涯学習推進の一助となっている。

・文化祭等の開催

地区公民館において、文化祭等を開催し、作品展示や舞台発表等を行った。

□芳井生涯学習センター文化講演会の開催

文化講演会 入場者数 313人

（コンサート事業 令和5年度は開催無し（隔年開催）

令和3年度より隔年開催。次回は令和6年度開催。）

□優秀映画鑑賞会、子ども映画会の実施

優秀映画鑑賞会 3回 延べ 360人（アクティブライフ井原）

子ども映画会 2回 延べ 240人（アクティブライフ井原）

上映作品に関しては、来場者アンケートや話題作を参考に厳選している。

□人材活用の拡充

・びんご人材ネットワーク「まなびんご」の活用

専門知識や技術を身につけた指導者やボランティアの方に、びんご人材ネットワーク「まなびんご」への登録を促し、地域での学習会などに紹介・派遣するなど、活躍の機会や場を提供した（備後圏域での登録者総数 126人のうち市内の登録者が7人）。

（再掲）

□民間団体等との協働による事業の推進

・アクティブライフ井原まなびめいと（少年少女合唱団・ジュニア弦楽合奏団・ジュニア絵画クラブ等）の活動支援

	<p>少年少女合唱団…講座を 24 回実施。スタインウェイピアノリレーコンサート、合唱フェスティバルに出演。ミニコンサートを開催。</p> <p>ジュニア弦楽合奏団…講座を 24 回実施。スタインウェイピアノリレーコンサート、人権セミナーのオープニングに出演。ミニコンサートを開催。</p> <p>ジュニア絵画クラブ…講座を 24 回実施。</p> <p>いろは塾…年 4 回、延べ 100 人参加。</p> <p>事業の企画から実施まで、活動の支援は十分にできた。小学生を中心にいろは塾を主催することで、体験学習の機会を提供し、各種イベント等へも積極的に参加した。</p> <p>口いきいきばら出前講座の充実と利用促進</p> <p>市民からは好評を得ており、行政職員の生涯学習に対する意識の向上を図れた。 (講座回数 108 回)</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>成人大学講座の開設</p> <p>成人大学講座は成人を対象とした講座ではあるが、参加者の大多数が高齢者である。平日に講座を開催する場合、就労している世代は勤務等の関係で参加が困難と考えられる。学習内容のニーズを把握し、参加しやすい日程で魅力のある講座の開催を検討していく。</p> <p>高齢者学級の開催</p> <p>各学級の参加者数はコロナ前と比べると減少している傾向にある。引き続き、受講者のニーズに合った講座内容を検討し、広報・周知に努めたい。</p> <p>芳井生涯学習センター文化講演会の開催</p> <p>新型コロナウイルス感染症等の影響等により、客足も戻っていない状況であり、アンケートなどでニーズ調査を行うなどして、人気のある講師やタイムリーな内容を選ぶことにより多くの集客に努める。</p> <p>人材活用の拡充</p> <p>現時点で、井原市の登録講師数は7人に留まっている。年1回広報誌へ人材バンクの記事を掲載しているが、併せて地元で活動している専門知識や技術を身につけた指導者やボランティアの方へ登録を促し、活動の場を提供していく。</p> <p>民間団体等との協働による事業の推進</p> <p>アクティブライフ井原まなびめいとは会員から徴収する年会費等で活動を行っているが、年々、会員数が減少しており、資金調達に苦慮している。</p> <p>年4回実施している小学生対象の行事(いろは塾)については募集定員を超える応募があるため、参加児童及び保護者へ活動の周知と参加を呼び掛けている。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>成人大学講座の開設</p> <p>初心者向けスマートフォン講座など、市民のニーズにそった講座の開催等が実施できています。引き続き、学習機会の提供に努めていただきたい。</p>

3. 人権を尊重する社会の実現

3-(1) 人権教育の推進							
<p>人間の生命はかけがえのないものであり、これを尊重することは何よりも大切であることは言うまでもありません。その上で、性別や年齢、国籍の違い、障害の有無などに関わりなく、全ての人間の権利が守られ、幸せに生きることのできる社会の実現は、世界共通の最重要課題と言えます。</p> <p>生活様式の変化や価値観の多様化、新型コロナウイルス感染症の流行など、新たな現代的課題も生まれるなか、互いの価値観や生き方を認め合いながら、誰もが個性や能力を発揮し、自分らしく生きることのできる社会の実現に向け、様々な人権問題に対する理解を深めたり、課題解決に主体的に関わろうとしたりすることのできる人権意識や人権感覚を身に付ける人権教育の推進が求められています。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	くらしと人権講座受講者数	202人 (R3)	1,200人 806人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人
令和5年度中における取組状況と成果	<p>くらしと人権講座の開催 井原市制施行70周年記念事業を冠し6講座を開催した。 (受講者延べ人数806人) 各回のテーマが重複しないよう工夫し、様々なテーマによる学習機会の提供を目指して、継続的に取組を行った。 ※コロナの5類移行に伴い、受講人数の上限を設けず実施した。また、可能な講座は井原放送による収録を行い、後日放映することでより多くの人の受講機会の確保に努めた。</p> <p>諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進(PTA、地区、企業等) PTAや公民館等では人権教育研修会が計画され、必要に応じて支援を行った。 人権啓発教材(DVD等)を用いた研修会(4校園、8自治公民館、その他3) 人権尊重のまちづくり出前講座(9/19出部小5年、3/15大江公民館)</p> <p>市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進 市民活動推進課と連携し、「人権セミナー2023」を開催。</p> <p>井原市ふれあいセンターでの交流活動等の推進 成人教養講座、小学生教養講座、ふれあい交流活動及びまつり行事等の主催事業の開催、地域の団体による各種サークル活動や子ども会活動等の支援を行い、年間を通して市民の交流を進めることができた。</p>						

<p>課題と対応策</p>	<p>くらしと人権講座の開催</p> <p>引き続き多くの人に参加してもらえるようニーズに合った企画と開催方法の工夫及び広報活動に努める。くらしと人権講座の開催については多様な人権課題等について多くの人考える機会となるよう、引き続き各課との連携やワークショップの導入、現地研修の実施など、工夫・検討していく。</p>
<p>有識者による評価 意見等</p>	<p>くらしと人権講座の開催</p> <p>課題と対応策のとおり、引き続き多くの人に参加してもらえるようニーズに合った企画と開催方法の工夫及び広報活動に努め、実施していただきたい。</p>

3. 個性ある地域文化を育むまちづくり（文化活動の充実）

1. 芸術・文化活動の活性化と環境づくり

1. 芸術・文化活動の活性化と環境づくり

市民の芸術・文化活動への関心を高め、鑑賞・発表機会の拡充や文化関係団体の支援を図るとともに、各種芸術・文化活動の情報提供や啓発活動の充実に努めます。

また、優れた芸術・文化に触れることのできるイベントを企画・開催することにより、地域間文化交流を推進します。

目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	平櫛田中美術館 入館者数	34,190 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人
		(R5)	34,190 人				

令和5年度中
における取組
状況と成果

臨平櫛田中美術館特別展「第30回平櫛田中賞受賞記念展 棚田康司」の開催

秋に受賞記念展を開催し、現代アートの第一線で活躍する彫刻家の作品展示を行った。田中賞展では過去2番目の入館者数6,252人と大変好評であった。

新平櫛田中美術館ワークショップの開催

講習室を会場に3回開催し、延べ66人の参加者数があり、いずれも好評であった。

新鏡獅子20年ぶりの里帰り展示

国立劇場の建替えに伴い、平櫛田中の代表作《鏡獅子》が令和6年2月7日より常設展示され、令和5年度中だけで8,339人と多くの来館者で賑わった。

芸術・文化団体の育成・支援

文化協会は、会員数1,082人、29専門部と35文化教室が活動した。文化協会の会員数は微減であったが、文化教室は教室数、受講生数ともに減少が進んでいる。

文化祭、各種発表会の開催支援

井原市文化祭の会場をリニューアルした平櫛田中美術館、井原市役所へ変更し、市民会館、平櫛田中美術館、井原市役所一帯に集約して実施した。また、昨年に引き続き「集まれ!井原の芸術家」で文化協会の活動を井原放送で放映し、活動内容の広報に努めた。

スクールコンサートの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3年間中止していたスクールコンサートを実施した。なお、今回より隔年で市内13小学校の高学年(5・6年生)を対象とした開催となっている。倉敷天領太鼓による和太鼓の演奏であったが、和太鼓の迫力ある演奏や児童が参加した体験などもあり、盛り上がった公演となった。

(参加児童:557人)

井原市文学賞の実施

26年度より児童・生徒文芸大会を文学賞に統合して実施している。一般の部は、

	<p>5 部門(短歌・俳句・川柳・現代詩・随筆)で作品を募集し、79 点の 応募があり、児童・生徒の部では、短歌、俳句、川柳、詩の 4 部門で作品を募集し、4,004 点の応募があった。応募総数は、一般の部が昨年度から増加し、児童生徒の部では微減であった。</p> <p>□観月会の開催 4年ぶりにお茶席を含めた市民会館、田中苑周辺での開催となった。三曲による演奏やお茶席へ多くの方が参加され、伝統文化継承の一助となった。</p> <p>□伝統文化体験教室「和の楽校」の開催支援 26 年度より文化協会主催で実施している「和の楽校」をアティブライフ井原、美星公民館で開催することができた。延べ 76 人の参加があり、伝統文化の後継者育成を図った。</p> <p>□臨宝くじ文化公演事業「コロツケ with ものまね芸人爆笑！スペシャルライブ」の開催 ものまねタレントであるコロツケを中心としたものまねの公演を自治総合センターの助成により、実施することができた。コロナ禍後では初めての市民会館ホール満席となり、盛況であった。(906 人来場)</p> <p>□文化部活動の地域移行の推進 部活動の地域移行を進めるため、移行への現状や課題を調査するとともに、文化協会など受け皿となる団体への働きかけ、小学校や中学校への部活動地域移行についての周知を行った。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>文化協会員、文化教室受講生の減少 近年、少子高齢化や情報の多様化など社会情勢の変化に伴い文化協会員、文化教室受講生が減少傾向にあり、このため専門部や文化教室の運営が難しくなっている。</p> <p>文化協会員の成果を発表できる場を提供するとともに伝統文化体験教室「和の楽校」や「集まれ!井原の芸術家」等を実施した。令和6年度は文化協会発足 70 周年の年であり、「未来につなげよう井原の文化」をテーマに記念事業が展開されるため、70 周年事業を中心に文化協会の活動の周知や次代の文化の担い手発掘を進めたい。</p> <p>また、部活動の地域移行の受け皿を文化団体が担うことにより、次代の文化の担い手育成に繋げたい。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>芸術・文化団体の育成・支援 難しいことではありますが、先人の培われた文化を継承していくためにも、文化協会員や文化教室受講生の成果を発表できる場を提供したり、井原放送で活動の様子を放送したり、引き続き、情報発信に努めていただきたい。</p>

2. 文化施設の活用

2. 文化施設の活用							
平櫛田中美術館、市民ギャラリー、文化財センター等の適切な維持管理に努め、これら文化施設 の特色ある拠点整備を推進するとともに、各施設間の連携を一層深めることにより、利用の促進を 図ります。							
目標指標 ※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
	平櫛田中美術 館入館者数 (再掲)	34,190 人 (R5)	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人
			34,190 人				
	市民ギャラリー 利用者数	12,986 人 (R5)	10,000 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人
			12,986 人				
	文化財センター 利用者数・芳井 歴史民俗資料 館入館者数	6,811 人 (R5)	7,000 人				
6,811 人							
令和5年度中 における取組 状況と成果	<p>□平櫛田中美術館での芸術文化情報発信</p> <p>令和5年4月にリニューアルオープン後、新美術館で全館所蔵品展示を行うと共に、秋には特別展「第30回平櫛田中賞受賞記念展 棚田康司」を開催し、現代アートの第一線で活躍する彫刻家の作品展示を行った。</p> <p>令和6年2月より展示が始まった平櫛田中の代表作「鏡獅子」の里帰りの効果もあり、市外県外からの来館者が多く、新美術館の良さを実感してもらえた。</p> <p>□市民ギャラリーの利用促進</p> <p>新たに美術館内へ併設された市民ギャラリーは、リニューアルオープンに合わせ、井原市文化協会70周年プレ記念事業市民ギャラリー展が開催されるほか、年間を通して利用団体も多く、盛況であった。(28件、利用者数12,986人)</p> <p>□文化財センター、芳井歴史民俗資料館、星の郷民具伝承館、桜溪漢学塾公園の維持管理</p> <p>入館者及び利用者は、コロナ禍前の状況にほぼ戻った。施設の適切な維持管理に努めた。</p> <p>□市民茶室の維持管理と利用促進</p> <p>利用件数24件、利用者数1,184人であり、コロナ禍前の状況にほぼ戻った。</p>						
課題と対応策	<p>新美術館の運営と市民ギャラリーの運営、利用促進</p> <p>新美術館が井原市の芸術文化を高める発信拠点となるために、今後、どのような展覧会を開催するか、どういった講座、ワークショップなどを実施するかを検討する必要がある。</p> <p>引き続き、魅力ある美術館となるため、平櫛田中美術館運営委員会の意見を聴きながら、展示のあり方等を工夫すると共に、新美術館に併設された市民ギャラリー、講習室をより多くの方に利用していただけるよう、主たる利用団体である井原市文化協会との連携に努める。</p>						

有識者による 評価意見等	市民ギャラリーの利用促進 平櫛田中美術館に市民ギャラリーが併設され、多くの方が活発な活動の発表の場として、利用されています。今後も幅広い方にご利用いただくよう、啓発等に努めていきたい。
-----------------	--

3. 文化財・歴史的資源の保存・活用

3. 文化財・歴史的資源の保存・活用	
<p>ふるさと意識の高揚のため、多様な地域の文化財や歴史的資源の保存・活用を図るとともに、文化財センターを中心とした適切な保存・管理に努めることにより、文化財保護の意識を高め、郷土愛の醸成を図ります。</p>	
<p>令和5年度中における取組状況と成果</p>	<p>□雪舟サミット in 井原の開催</p> <p>雪舟ゆかりの5自治体が集い、雪舟を通じた地域づくりについて情報交換をするとともに本市における雪舟の関わりについて講演や水墨画展などを通して再認識することができた。なお、雪舟サミットについては発展的解消となり今後は雪舟回廊協議会がその事業を引き継ぐこととなった。 入場者数 200人</p> <p>□文化財センターの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の整理・保存 民間や市の開発事業に係る確認調査や立会調査を実施し、埋蔵文化財の保存に努めた。保存すべき文化財は発見されなかった。 ・歴史資料の整理・保存 市へ寄贈や寄託のあった歴史資料について、適宜整理を行い、保存することができた。 ・体験講座・考古学講座の開催 伝統的な町並みをテーマに講座を2回開催したほか、染めもの体験や化石探しなどセンター講座を5回、企画展示解説講座を3回実施し延べ161人が参加した。井原市内の文化財について、学習の機会を提供することができた。 ・文化財めぐりの開催 文化財めぐりを2回実施し延べ47人が参加した。井原市内の文化財について、学習の機会を提供することができた。 <p>□文化財センター企画展の開催</p> <p>令和5年度は企画展を3回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「田中さんと井原の人々の交流」(4月15日～6月11日) 入場者数 1,187人 ・夏季企画展「幕末の流行り病と医療」(7月22日～9月3日) 入場者数 514人 ・秋季企画展「雪舟と重玄寺の縁」(10月14日～11月26日) 入場者数 922人 <p style="text-align: right;">文化財センター企画展入場者数合計 2,623人</p> <p>平櫛田中美術館リニューアルオープンに合わせた展示や普段見ることができない近隣や郷土の資料を紹介することができた。</p> <p>□井原歴史講座の開催</p> <p>馬越恭平没後90年を記念し、郷土の偉人、馬越恭平の業績について「みんなで学ぼう!郷土の偉人 馬越恭平」をテーマに、1回目は「明治時代の鉄道の発展と井笠鉄道」、2回目は「馬越恭平 ビジネスマンとしての足跡と実績」と題して開催し、多くの方に聴講していただいた。</p>

	<p>□芳井歴史民俗資料館特別展・企画展の開催</p> <p>・春季企画展「-備中・備後- 国境の国人・土豪たち」 (4月22日～6月4日) 入館者数 665人</p> <p>・第54回特別展「市制施行70周年記念 井原市のあゆみ」 (10月21日～12月3日) 入館者数 426人 来館者合計 1,091人</p> <p>□伝統芸能の保存・継承</p> <p>渡り拍子の保存団体へ保存継承への補助金を支出した。三原渡り拍子保存会により、11月11日(糸崎八幡神社)、12日(中山天神社)に神事が行われた。また、種地区の伝統芸能である種の渡り拍子は、11月23日(種八幡神社)に神事が行われた。また、文化庁の伝統文化親子教室事業に対する国の補助金申請の窓口となり、地域クラブ長発太鼓(井原町まちづくりの会)が補助金を受け活動している。</p> <p>□ホームページ「いばら歴史館」による情報発信</p> <p>井原市の文化財や偉人、伝統芸能など貴重な歴史遺産を分かりやすく公開し、情報発信に努めた。また、新たな指定文化財について掲載内容を更新した。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>伝統芸能の保存・継承</p> <p>少子高齢化や過疎化に伴い、伝統芸能の保存、継承が困難となっている。後継者育成のため、保存団体が市内全域に出演者を募集するほか保存活動を周知するため様々な取り組みを行っている。行政においても補助金以外にどのような支援ができるか検討する必要がある。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>伝統芸能の保存・継承</p> <p>高齢化や過疎化に伴う後継者不足などの課題解決のため、地域の方もがんばっておられます。行政としてできる支援を継続してお願いします。</p>

4. スポーツの力でつくる ひととまち（スポーツの充実）

1. 気軽にスポーツに親しむことができる環境づくり

1 - (1) 生涯スポーツの振興							
<p>総合型地域スポーツクラブ「いばら生き生きクラブ」を中心に、子どもから高齢者まで気軽にスポーツに親しめる環境整備を進めます。</p> <p>また、スポーツ推進委員を派遣して地域スポーツ教室を開催することにより、各地域における生涯スポーツの推進を図ります。</p>							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※対象年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	いばら生き生きクラブ 会員数	355人 (R5)	550人	550人	550人	550人	550人
			355人	-	-	-	-
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□スポーツ教室の充実</p> <p>弓道教室、ソフトテニス教室、卓球教室、バドミントン教室、新体操教室、水泳教室、SUPヨガ教室、海洋クラブを開講した。予定していた教室のうち庭球教室、男子新体操教室は申し込みが少なく開講できなかった。(2,214人参加)</p> <p>■いばら生き生きクラブの活動の充実と自立の促進</p> <p>ソフトバレーボール、弓道、ソフトテニス、テニス、陸上競技、卓球(昼・夜)、合気道、華道、バウンドテニス、バドミントン、大人の楽トレを開講。</p> <p>(10種目 教室:会員数 355人)</p> <p>令和4年度以降市補助金の交付を受けず、自主運営することができている。コロナ禍以前の会員数まで回復していない。</p> <p>□スポーツ推進委員の活動の充実</p> <p>各推進委員を中心に、地域スポーツ教室等を14回開催し、地域スポーツやニュースポーツを普及することができた。(派遣委員:延べ66人)</p> <p>□ニュースポーツの普及</p> <p>ホームページ等でニュースポーツの紹介や備品貸出のPRを行うとともに、スポーツ推進委員が行う地域スポーツ教室や各種団体(校園長会、公民館長会等)での周知も行い普及に努めた。(貸出し種目:21種目)</p> <p>地域が行う子供会や放課後児童クラブなどに多くの備品を貸し出すことができ、活用が図られた。(貸出し件数:84件)</p>						
課題と対応策	<p>いばら生き生きクラブの活動の充実</p> <p>いばら生き生きクラブの自立を促進するため、運営方法の改善を実施し、活動費を各クラブに分配するなど自主的な運営が行えるよう支援に努めた。一方で、少子高齢化やコロナ禍、スポーツ活動の広域化などによりクラブの会員がコロナ禍前まで回復していない。今後、部活動の地域移行の受け皿としてクラブをニーズに合わせて追加するとともに、周知を図る必要がある。</p> <p>また、クラブ活動を実施するうえで、指導者・後継者の育成・スキルアップが課題となっており、講習会等を計画的に実施する必要がある。</p>						
有識者による評価意見等	<p>引き続き、子どもから高齢者まで気軽にスポーツに親しめる環境づくりに努めていただきたい。</p>						

1 - (2) 体力や健康状態にあったスポーツの振興							
市民一人ひとりの年齢や体力、興味に応じてスポーツに取り組めるよう、スポーツ教室やスポーツイベント等の内容の充実を図るとともに、多くの市民がスポーツを楽しみ、自主的なスポーツ活動を通して交流できる環境づくりを進めます。							
目標指標	内容	現況値	R5	R6	R7	R8	R9
※各年度の数値は 上段が目標値 下段が実績値	井原市グラウンド・ゴルフ場利用者数	21,045 人 (R5)	21,000 人	22,000 人	23,000 人	24,000 人	24,600 人
			21,045 人	-	-	-	-
令和5年度中 における取組 状況と成果	<p>□スポーツ大会等の実施、充実 予定されていたスポーツ大会はすべて実施することができ、参加者数もコロナ禍前の状況に戻っている。また、市民体育祭は、見直しを実施し、午前中開催、フィールド競技のみの地区対抗種目での実施となり、概ね好評であった。</p> <p>□グラウンド・ゴルフ場の利用促進 高齢者のスポーツ活動の拠点となるだけでなく、幅広い年齢層の市民の健康づくりの場となっており、利用者数もコロナ禍以前の状況に戻った。 (利用者数:21,045 人)</p> <p>□市民スポーツの日の充実(毎年10月第2月曜日(スポーツの日)) 「市民スポーツの日」は、トップアスリート(ファジアーノ岡山・岡山シーガルズ・平林金属)によるスポーツ教室を開催したほか、スポーツ施設の無料開放を行いスポーツに親しむ場を提供し、多くの方に利用していただいた。 (教室参加者:109 人、利用者数:576 人)</p> <p>□<u>新</u>運動部活動の地域移行の推進 部活動の地域移行に伴う部活動指導員の確保に努めた。また、地域移行の受け皿であるクラブやスポーツ少年団等の現状把握や調査を実施するとともに、組織化を進めた。また、小学校や中学校へ部活動の地域移行についての周知を行った。</p> <p>□井原・魚津スポーツ交流 魚津市で開催された「しんきろうマラソン」に、10 人の選手団の派遣を派遣し、スポーツを通して交流を図ることができた。また、全国健康マラソン井原大会へも魚津選手団が派遣され交流が図れた。</p>						
課題と対応策	<p>運動部活動の地域移行 運動部活動の地域移行の動きに対して、部活動の指導者等にスポーツ協会の人材を活かすよう周知を行っているが指導者の人材が不足している。引き続き部活動の地域移行について周知を図り、人材確保に努める必要がある。</p>						
有識者による 評価意見等	<p>運動部活動の地域移行 人材確保、地域の受け皿確保など、引き続き、課題解決に向けて取り組んでいただきたい。</p>						

2. 競技スポーツの振興

2-(1) 井原市スポーツ協会の充実	
<p>スポーツ協会を中心に関係団体が一体となって若い世代の育成を図るとともに、全体的な競技人口の増加に向けた取組を進める。また、市民にスポーツへの関心を持ってもらうため、ハイレベルな競技に接する機会を創出するとともに、「陸上競技」「新体操」だけでなく、その他の競技におけるレベルアップを図る。</p>	
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□各種スポーツ大会の開催 ≪井原体育館・芳井体育館≫ バレーボール大会、卓球大会、バドミントン大会、空手道大会、柔道大会、剣道大会、合気道演武会、ソフトバレーボール大会、太極拳体験講習会 (9 競技 17 大会 1 講習会 2,273 人)</p> <p>≪陸上競技場・芳井運動場・美星運動場≫野球大会(5 競技:6 大会:568 人参加)</p> <p>≪野球場≫ 野球大会(3 大会 333 人参加)</p> <p>≪庭球場≫ 庭球大会(6 大会 252 人参加)</p> <p>≪弓道場≫ 弓道大会(2 大会 53 人参加)</p> <p>≪グラウンド・ゴルフ場≫ グラウンド・ゴルフ大会(1 大会 197 人)</p> <p>≪ロード≫ 井原市駅伝競走大会、県高校駅伝大会、市民サイクリング大会 (4 大会 757 人参加)</p> <p>≪リフレッシュ公園≫ 野球大会、ソフトボール大会、サッカー大会 (5 大会 575 人参加)</p> <p>≪その他≫ ゲートボール大会(2 大会 83 人参加) 予定どおり大会が開催することができた。</p> <p>□競技人口の増加対策 スポーツ協会と連携し、大会開催の周知に努めるとともにスポーツ教室を開催し、競技人口増加に努めた。(スポーツ教室参加者数 2,271 人:再掲)</p> <p>□高レベルの技術に触れる機会の創出 井原カップ男子新体操競技大会、井原新体操フェスティバル、県高校駅伝競走大会(男女)、県ハーフマラソン選手権大会は予定どおり実施することができた。また、「市民スポーツの日」にトップアスリート(ファジアーノ岡山・岡山シーガルズ・平林金属)を招いてスポーツ教室を開催し、市内のスポーツ団体と触れ合う機会を設けた。(再掲)</p> <p>また、星の郷健康マラソン大会へは小林祐梨子選手、全国健康マラソン井原大会へは坂本直子選手をゲストランナーとして招待し、参加者がトップアスリートと触れ合う機会を創出した。</p> <p>□井原市スポーツ協会長表彰 体育功労者・団体及び優秀選手・団体を表彰した。 (スポーツ奨励賞 2 人 1 団体、功労者 6 人、優秀選手 53 人、優秀団体 9 団体) 優秀な選手及び功労者を激励・顕彰するとともに市民への周知を図ることができた。</p>

<p>課題と対応策</p>	<p>各種スポーツ大会の開催 少子高齢化に伴い競技団体や競技人口が減少し、参加人数や参加団体が減少している大会がある。スポーツ教室の周知を行い、スポーツの新たな担い手を発掘する必要がある。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>各種スポーツ大会の開催 人口減少に伴い、参加人数も減少するのは、仕方ないとはいえ、積極的な周知などの支援に努め、スポーツの振興を図っていただきたい。</p>

<p>2- (2) スポーツによる元気の発信</p> <p>市民と行政が一体となって、「陸上競技」「新体操」などの競技スポーツのレベルアップを図り、全国に井原の“元気”を発信します。</p>	
<p>令和5年度中における取組状況と成果</p>	<p>□陸上競技、新体操のまちづくり 興譲館高校陸上競技部、新体操選手育成強化（井原高校、井原ジュニア新体操クラブ、Sparkle井原R.G）への財政的支援を行った。 また、県立井原高校南校地跡地を練習会場として継続使用できるよう県教委との協議を進め、練習会場の確保を行った。</p> <p>□大会開催や大会出場への補助 文化・スポーツ振興協会と連携し、井原カップや新体操フェスティバル、全国健康マラソン井原大会・星の郷健康マラソン大会等へ財政的支援を行うとともに全国大会・中国大会へ出場する選手・団体へ激励金を交付することで大会出場の補助を行った。</p> <p>□講習会の実施 審判講習会（ソフトボール・野球）や、熱中症対策講座、救急法講習会を開催し、スポーツ振興に不可欠である指導者・審判員の技術向上・資質の向上を図った。 （3種目3回開催、46人参加）</p> <p>□井原市スポーツ表彰（顕功賞、荣誉賞、奨励賞、功労賞） スポーツ奨励賞2人1団体を表彰した。（再掲）</p> <p>□文化・スポーツ振興協会との連携 全国健康マラソン井原大会及び晴れの国岡山駅伝競走大会選手派遣事業への助成を行い、スポーツレベルの向上と普及振興に努めた。また、全国大会・中国大会に出場する選手に激励金を交付し、競技者の意欲向上につなげた。 （101大会 団体競技：14団体 223人 個人競技：209人）</p> <p>□スポーツ施設の整備・充実 市民の方が施設を安全で快適に利用できるよう施設・設備の整備・充実に努めた。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>スポーツの振興 少子高齢化や社会情勢の変化によりスポーツ活動の指導者や審判員の減少が進んでいる。スポーツの裾野を広げるとともに競技スポーツのレベルアップを図るため、各種講習会や講座を開催し、指導者・審判員の技術・資質の向上を図るとともに後継者の育成を図る必要がある。</p>
<p>有識者による評価意見等</p>	<p>スポーツの振興 引き続き、スポーツの振興に努めていただきたい。</p>

5. 教育施設・設備の整備と機能の充実

1. 学校（園）施設・設備の整備

<p>1. 学校（園）施設・設備の整備</p> <p>学校施設関係では、学校施設長寿命化計画に基づき効率的かつ計画的な維持管理に取り組み、安全で快適な教育環境づくりに努めます。</p> <p>また、確かな学力向上や非常時における学びの保障のため、ICT環境の整備に努め、教育環境の向上を図ります。</p>	
<p>令和5年度中における取組状況と成果</p>	<p>□営繕工事</p> <p>【小学校】・屋内運動場屋根等改修工事（大江、稲倉、出部、芳井小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水改修工事（井原、芳井小学校） ・外壁改修工事（大江、木之子、芳井、美星小学校） <p>【中学校】・給食コンテナ室屋根防水等改修工事（高屋中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道場屋根等改修工事（高屋、井原中学校） <p>□照明 LED 化リース事業（体育館 HID ランプの改修）</p> <p>【小学校】 7校 県主、荏原、野上、青野、出部、美星、芳井小学校</p> <p>【中学校】 3校 井原、美星、芳井中学校</p> <p>□<u>臨</u>遊具点検（劣化点検・規準点検）</p> <p>市内幼稚園、小学校、中学校の遊具の安全確保のため、毎年実施する劣化点検に加えて、配置や構造上の安全確保に関する規準に基づいた点検（規準点検）を実施した。規準点検の結果により、重度の傷害あるいは恒久的な障害をもたらす危険がある状態であると判定された遊具については、使用禁止措置を講じた。</p> <p>□<u>新</u>全中学校へのデジタル採点システム導入</p> <p>採点・集計の効率化及びデータ化を実施し、教員から生徒への指導の質の向上を図るため、全中学校へデジタル採点システムを導入した。</p> <p>□<u>臨</u>全小中学校の校務支援システム更新</p> <p>校務（児童生徒の成績処理、指導要録、成長の記録、通知表などの書類作成など）の効率化を図るために平成28年度に導入した校務支援システムの更新を実施した。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>学校施設長寿命化計画の推進</p> <p>学校施設の多くが、昭和40年代後半から50年代にかけて建築されており、老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えつつある。</p> <p>このような状況のなか、本市の財政状況等を踏まえながら、引き続き計画的に施設の改修等を実施する必要がある。</p>

	<p>遊具の安全確保</p> <p>遊具における事故の物的要因である遊具の構造と維持管理の不備に対応するため、教員による日常的な安全点検に加え、有資格者による点検を実施し、引き続き安全確保に努める必要がある。</p> <p>また、令和5年度、使用禁止措置を講じた遊具については、内容を精査し、修繕、撤去等適切な対応に努める。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>学校施設長寿命化計画の推進</p> <p>引き続き、計画に沿い、学校施設の効率的かつ計画的な維持管理に努めていきたい。</p>

2. 社会教育施設・設備の整備

2. 社会教育施設・設備の整備	
<p>公民館等の備品の更新や、利用者の安全性や利便性等に配慮した施設整備を行い、社会教育環境の充実に努めます。</p>	
令和5年度中における取組状況と成果	<p>□公民館 青野公民館・芳井公民館明治分館では、浄化槽の取替修繕、野上公民館のトイレ洋式化修繕を実施。年次計画に基づき、備品購入を行った。</p> <p>□アクティブライフ井原 ふれあいプラザ・2階ホワイトエシステム空調設備の更新、正面玄関外側自動ドア装置一式取替修繕を行い、設備の充実に努めた。</p> <p>□芳井生涯学習センター 館内照明（ホール舞台を除く。）のLED化や太陽光発電設備計測装置の修繕のほか、ホール空調やエレベータ等の修繕を行った。</p> <p>□星の郷ふれあいセンター 窓ガラス修繕、ガス漏れ警報器修繕をし、利用者へ安全で快適な施設環境を提供することができた。</p> <p>□体育施設 市内体育施設のLED灯をリースにより整備した。</p> <p>□井原海洋センター 老朽化していたプールの塗装工事、暖房器具更新、建具修繕等を行った。</p> <p>□男子新体操フロアマットの整備 老朽化していたフロアマットの更新を行った。</p> <p>□<input checked="" type="checkbox"/>井原体育館空調導入調査分析の実施 空調導入のための調査を実施し、地中熱を熱源とする空調導入が可能との調査結果が得られた。</p> <p>□学校給食センター 脱水機（井原）の更新を行った。</p>
課題と対応策	<p>生涯学習施設 建物及び設備の老朽化による故障に加え、設備の旧式化により、利用できない機器や再生できないメディアがあり、利用者の要望に応えられない事例が増えてきてい</p>

	<p>る。製造終了した機器も増えてきており、設備の更新で対応しなければならない。利用者に安全で快適な空間を提供するため、今後も引き続き計画的な維持管理と設備の更新に努める。</p> <p>図書館 井原図書館の建物は老朽化しており、複合化・多機能化を前提に建て替えを検討していく必要がある。</p> <p>学校給食センター 調理機器等が老朽化しており、使用不可となった場合は、給食の提供ができなくなる恐れがあるため、計画的な更新を行う。</p>
<p>有識者による 評価意見等</p>	<p>図書館 井原図書館建て替え検討の際には、図書館機能単独で考えるのではなく、多角的な視点で、検討を進めていただきたい。</p>

井原市教育委員

(令和6年3月31日現在)

教育長 伊藤 祐二郎

教育長職務代理者 藤井 秀彦

委員 奥田 隆夫

委員 西田 友美

委員 服部 教弘